

第6回キャリア教育アワード エントリー事例集



2015 年 12 月

経済産業省では、子どもたちに対し働くことの意義や学びと実社会とのつながりを伝え、社会的・職業的自立に向けた力を育成する「キャリア教育」の取組を推し進めています。

この一環として、産業界による優れた教育支援活動の取組とその効果を広く社会で共有し、こうした活動を奨励・普及・促進することを目的として、企業や経済団体等による教育支援の取組を公募し、優秀と認められる事例を表彰する「キャリア教育アワード」を実施しています。

審査部門は、各企業・団体の取組の主体により①大企業の部、②中小企業の部、③コーディネーターの部で構成しており、審査委員会による審査を経て、大賞（経済産業大臣賞のうち総合的に最も優れた企業・団体等）、最優秀賞（経済産業大臣賞）、優秀賞、奨励賞を選出します。

2015年度は計39件の応募がございました。本事例集にて、各企業・団体の取組概要をご紹介しますので、ご参考にしていただけたら幸いです。



（ご参考）「キャリア教育アワード」の審査基準

■大企業の部・中小企業の部

継続性	長期にわたり運営していくため、継続的に改善するサイクルが実行されているか
普及性	企業・団体の活動規模に応じた展開をしているか
汎用性	教育ニーズに対応できる取組となっているか
企画性	プログラムの内容に工夫があるか（目標設定、授業の進め方等）
キャリア教育としての教育効果	授業内容が、社会的・職業的自立に向けた力の育成支援となっているか

■コーディネーターの部

有効性	職業的自立に向けた教育効果の向上に貢献する支援サービスを提供しているか
支援実績	数多くの企業・学校・若者に支援サービスを適用しているか
産学関係構築への貢献	産学関係者が相互理解を深め、協働するための関係構築に貢献しているか

※審査基準の各項目の詳しい内容は、巻末の＜参考資料＞第6回「キャリア教育アワード」募集要項をご覧ください。

目次

経済産業大臣賞（最優秀賞）受賞事例

大企業の部



＜大賞※＞ 積水化学工業株式会社	4
------------------	---

※経済産業大臣賞受賞者のうち、総合的に最も優秀と認められる企業・団体等

中小企業の部

ダイソン株式会社	6
----------	---

コーディネーターの部

有限会社オーシャン・トゥエンティワン	8
--------------------	---

各部門のエントリー事例

＜大企業の部＞

＜優秀賞＞ 日本生命保険相互会社	12
＜奨励賞＞ 株式会社ユニクロ	13
＜奨励賞＞ 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ、株式会社三菱東京UFJ銀行	14
株式会社エー・ピーカンパニー、株式会社地頭鶏ランド日南	15
かりゆしグループ	16
JAIMA サマーサイエンススクール実行委員会	17
株式会社ジェイティービー	18
株式会社ダスキン	19
一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）	20
日本電気株式会社	21
バイエル薬品株式会社	22
株式会社リクルートキャリア	23
ロート製薬株式会社	24

＜中小企業の部＞

＜優秀賞＞ 一般社団法人アルバ・エデュ	25
＜優秀賞＞ 公益社団法人日本ストリートダンススタジオ協会	26
＜奨励賞＞ 一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会	27
＜奨励賞＞ 京都商工会議所 環境・エネルギー特別委員会	28
一般社団法人キャリア教育支援協会	29
株式会社 Good Try JAPAN	30
こどもエネルギーサミット実行委員会	31
NPO法人スマイルスタイル	32
一般社団法人ドリームマップ普及協会	33
特定非営利活動法人 natural science	34
一般社団法人日本ゆめ教育協会	35
富士商工会議所青年部、富士市立高等学校	36
一般社団法人 Future Skills Project 研究会	37
冒険王株式会社（求人情報誌ジェイウォーム）	38
松山商工会議所青年部	39
夢育塾（むいくじゅく）	40
リエゾン・デートル	41

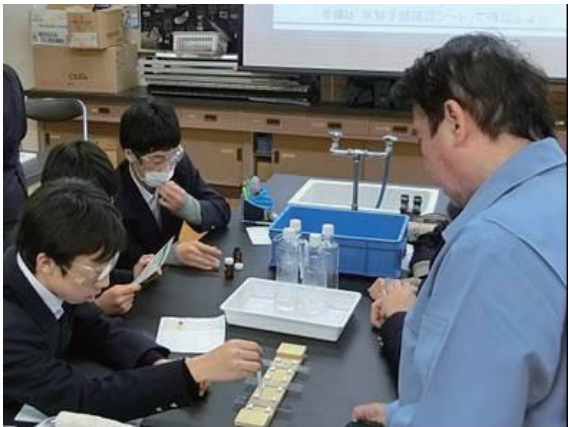
＜コーディネーターの部＞

＜優秀賞＞ キャリア教育研究所ドリームゲート	42
＜奨励賞＞ 株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート	43
特定非営利活動法人 WEBREIGO	44
特定非営利活動法人沖縄人材クラスタ研究会	45
株式会社 Campanula（カンパニユラ）	46
福岡女学院大学（キャリア開発教育センター）	47

＜参考資料＞

経済産業省によるキャリア教育への取組～キャリア教育コーディネーターの育成支援	10
第6回「キャリア教育アワード」募集要項	48
これまでの「キャリア教育アワード」受賞企業・団体一覧	54

大賞・経済産業大臣賞（大企業の部）

企業・団体名	積水化学工業株式会社
プログラム名	積水化学グループ 次世代育成支援プログラム ● “住まいと環境” 学習プログラム（積水化学工業株式会社 コーポレート、住宅カンパニー） ● 化学教室プロジェクト（積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー） ● 理科教室 “消化・吸収” のしくみと健康（積水メディカル株式会社）
活動の内容（概要）	積水化学グループは、「良き企業市民として、『環境』『次世代』『地域コミュニティ』を視点に置いた活動に取り組み、事業活動だけでなく社会への貢献を果たします」という社会貢献活動方針のもと、社会の課題と身近な暮らしを結び付け、体験型の学びを通して新たな価値観、総合的なモノの見方や問題解決力という「生きる力」を育むESD（持続可能な開発のための教育）の趣旨を踏まえ、積水化学グループの事業特性を生かした教育支援活動に2007年より取り組んできた。 各取組は社内のカンパニーや関係会社ごとに実施されており、小・中学校を対象に、「“住まいと環境” 学習プログラム」「化学教室プロジェクト」「理科教室～“消化・吸収” のしくみと健康」の3つのプログラムを提供している。 すべてのプログラムは、理科や家庭科の学習指導要領を考慮しており、教科の目標を教員と協働で設定するとともに、積水化学グループの次世代育成への考え方を組み込み、それらを基盤として授業を構成している。また、授業は班での活動がメインとなっており、同社の従業員がそれぞれの班に関わり、「どうして？」という疑問や「すごい！」という驚きの声に應えることで、生徒の興味・関心を高めている。特に、理科実験では、先生一人だけでは、個別の班への適切な助言や疑問への回答を十分に行うことができないという課題もあることから、高い評価を得ている。 活動は、開始から8年が経過したが、2014年度および2015年度では、積水化学グループの「CSR SHINKA（＝進化、新化、深化）」という共通理念のもと、教員と協働しながらさらに各プログラムを進化させ、より多くの児童・生徒、教員と関わりを深化してきた。また、それぞれのプログラムにおいて、学習指導要領の改訂や教員のニーズに合わせたプログラムへの改訂、新しいプログラムの開発に着手している。 今後はさらに従業員参画の意識向上を図り、より活動を充実させていくため、各プログラム担当者だけでなく、参加している従業員同士の交流を活発にすることを計画しており、活動全体がさらにSHINKAしていくことを目指している。
 ＜2015年6月13日実施＞ ニュージャージー日本語補習授業校にて実施の化学実験イベントの様子	 ＜2015年3月2日実施＞ 多摩市立鶴牧中学での授業風景

活動の内容 (詳細)	「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など
	学校の教育課程の中で、継続して実施していくために、教員検討会や教員アンケート、プログラム検証検討会、教員研修を実施するなど、プログラムの開発段階から実施・改善まで、常に教員と協働している。 各地域にエリリーダーを配置したり、研究所の全従業員が関わる体制をつくったりするなど、各カンパニー・事業所ごとに参加人員の拡大策に取り組んでいる。また、教員や生徒からの感想やフィードバックを伝えることで、参画している従業員のモチベーションアップを図っている。
	「普及性」についての具体的な取組、工夫している点など
	化学教室プロジェクトにおいては、教育機関へ出張授業要請の FAX フォームを配布し、広く要請に応じる体制を整備している。 高機能プラスチックカンパニーでは、海外拠点が多いという特徴を活かし、アメリカやオランダの現地校や日本語補習授業校で化学実験イベントを開始した。
	「汎用性」についての具体的な取組、工夫している点など
	教員からのアンケートやヒアリングなどを通じて、プログラムの改訂を行っている。化学イベント等の学校教育外での活動の際には、基本プログラムを軸に、時間や内容についてイベントの主催者と詳細な打ち合わせを行ったうえで実施をしている。
	「企画性」についての具体的な取組、工夫している点など
	プログラムは、学習指導要領を十分に考慮しており、教科の目標設定を教員と協働で設定するとともに、積水化学グループの次世代育成への考え方を組み込み、それらを基盤として授業を構成している。例えば、“住まいと環境”学習プログラムでは、「状況を読み取り、論理的に考える力」「人に分かりやすく伝える能力」を育成したい能力として設定し、実際の住宅の1/24 スケールの模型を使った家づくり体験を通じて、構造や空間を立体的にイメージしながら、依頼主のための「いい家」を提案するために、発想力を発揮して、楽しく考えられるようなプログラム内容としている。 また、プログラムは学習指導要領に基づいていることから、各単元における授業の「理解の深度化」「発展」と位置付け、事前・事後の授業と結びついている。 プログラムではグループでの言語活動が充実しており、互いに意見を出し合ったり、自分の考えを発表する活動を組み込んでいる。
	「キャリア教育としての教育効果」についての具体的な取組、工夫している点など
	プログラムの中で、企業講師が直接生徒に関わっていくことにより、仕事や生き方に対して企業で働く社会人（研究者、技術者等）がどのような考え方や思いを持っているかを自然に感じることができるようになっている。 また、各事業と関連した教材を用いていることから、学校での学びと社会とのつながりを実感することができる。

<審査委員からの評価コメント>

- 中学生が、家の模型作り、プラスチック実験、消化吸収の化学実験を通して、これに関わる住宅メーカーに勤める技術者の職業が住宅建設といった社会に役立っているということ、技術者の有する知識や技術の専門性が活かされていることが理解できる。
- 住まいやプラスチックなど身近なものを通じて、学校での学びと社会のつながりを感じるとともに、最先端技術に触れることで、理科への興味・関心を高めてもらい、将来を担う理工系人材の育成に資する取り組みとなっている。
- 企業特性を生かした3種類のプログラムを準備し、教科及び言語活動との関連にも配慮がみられる点、学校からの要望にも柔軟に対応し得る点、社内参画者へのフィードバックを継続的に行っている点、PDCAサイクルによる恒常的な改善を図っている点など、総合的にみて高く評価できる。
- グループでの実験を通じて、観察力と仮説の設定、論理的思考力、協働力という社会で求められる能力養成に繋がる。化学への関心を促し、理科系人材（研究者・技術者）の育成に繋がることも期待できる。
- 企業の特性を活かした専門性の高い理科教育が展開され、生徒や教職員が思考を深めていく中から、「SHINKA（＝進化、新化、深化）」という視点でのキャリア教育が実践されている。プログラムを通して、キャリア教育の基本的な意識とともに、思考力、判断力、表現力をはぐくむ教育活動となっている。

経済産業大臣賞（中小企業の部）

企業・団体名	ダイソン株式会社
プログラム名	全国中高生対象 ダイソン問題解決ワークショップ
活動の内容 (概要)	ダイソン問題解決ワークショップは、ジェームズダイソン財団との提携のもと、ものづくり・技術の楽しさと重要性を伝え、技術を用いて生活上の問題を解決するエンジニアの仕事について学ぶ機会を提供することを目的に実施する実体験型ワークショップである。 プログラムは中学校の技術の教育課程に沿っており、生徒の問題発見・解決力や協力する力、論理的思考力・表現力を育成し、外部講師が行う授業を通して社会との繋がりを学ぶ場を提供する。教員による事前授業、講師が訪問して行うワークショップ、教員による発展授業の三部構成となっており、事前授業では財団が用意する分解組立用のサイクロン掃除機を分解・観察し、身近な工業品やその技術に対する興味・関心を高めその仕組みを学ぶ。事前授業を学校の担当教員が行うことで、ワークショップ全体が、エンジニアという職に興味を持たせ、技術・エンジニアリングの可能性を知ってもらうための授業であるということを生徒がより理解し、ワークショップと日頃の学校での学習の繋がりを明確にすることにつながっている。 講師が訪問し行うワークショップでは、歴史上のエンジニアの話や、問題の解決策として物を生み出すエンジニアの仕事内容をクイズやディスカッションを交えながら学び、生徒が見つけた生活の中の「問題」に対する「解決策」をグループで考え、段ボールなど身近にある材料を使い実際に試作品を作り発表する。例えば「机がガタガタする」という誰もが経験したことがある問題を見つめなおしたグループは、その不安定さが机の脚に起因するとし、解決策として脚のない、天井から板を吊るす形の机を発案した。 ワークショップ実施前には担当教員との打ち合わせを複数回行い、その学校にとって最良な実施を計画する工夫をしている。例えば、理系女子の育成に力を入れたい学校では、ワークショップ内で女性エンジニアの活躍の紹介を多く取り入れたり、英語学習に力を入れている学校では、ワークショップを一部英語で行ったりするなど、学校側の目的に合わせて最大限の効果があるよう考慮している。 同社は正社員数約180名ながら、約60名がボランティアスタッフとして登録しており、全国各地での活動を実現。これまでに5,000人以上がこのワークショップを既に体験し、今後もさらに実施の場を広げていく予定である。
 ＜事前授業 1＞の掃除機の分解と組立では、生徒 4～5 人につき掃除機を 1 台提供し、生徒たちが自ら分解を行って製品内の仕組みやデザインについて考え、空気の流れやサイクロン技術を学ぶ。生徒たちは「これ何?」「だからここは丸い形だったんだ!」など口々に言いながら分解を進める。生徒自ら疑問を持ち、答えを発見していく。	 ワークショップにて、「雨の日に濡れた傘を教室に持ってくると廊下がぬれて危険だ」という問題を見つけたグループは、解決策として傘の自動乾燥機を考えた。事前学習で学んだサイクロン技術と、身近な問題を解決するというエンジニアの仕事内容を理解した上で問題定義と解決を行い、グループで協力し試作品を製作した。

活動の内容 (詳細)	「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など
	実施内容の理解を深めるために事前に学校への訪問や電話会議を行い、実施日程、実施の目的、事前授業のやり方やポイント、ワークショップの運用形態、発展授業の計画、普段の技術科目の中でどのように取り入れるのかを学校側の意見を聞き協力して行う。 ワークショップ実施後には、参加生徒と教員に事後アンケートを実施する。アンケートはワークショップ内容を評価する選択式質問に加えて記述式の質問も設け、生徒と教員からのコメントの細かなヒアリングを行う。アンケート結果はデータ化し実施校に報告するとともに、コメントや気づきをプログラムに反映させ、内容や実施方法に関し常に改善を行っている。 現在社員約 60 名がボランティアスタッフとして登録しており、ワークショップ実施が決定すると、登録者に参加を呼びかけ人員を確保している。一回のワークショップにつき、財団スタッフ 1 名とボランティア 2～3 名が参加し活動をサポートする。登録者には定期的に活動の報告をメールで行い、登録者の増加、参加者の確保が確実に進められるよう体制を整えている。
	「普及性」についての具体的な取組、工夫している点など
	ワークショップの希望は全国の学校から受け付けており、他のワークショップと日程が重なるなどの物理的要因がない限り実施を行う。地方の技術教員向け研究会などにも訪問や資料での紹介活動を行い、首都圏だけでなく全国での活動活発化を目標としている。その結果 2015 年は予定を含め 24 か所の実施が決定しており、東北、関東、中部、関西、中国、四国、九州地方と幅広い地域での活動が実現している。
	「汎用性」についての具体的な取組、工夫している点など
	ワークショップ実施前には担当教員との打ち合わせを訪問、電話、メールで複数回行い、実施学年、実施単位とタイミング、ワークショップの実施形態などを詳しくヒアリングすることで、その学校にとって最適な実施を計画する工夫をしている。
	「企画性」についての具体的な取組、工夫している点など
	ワークショップは生徒が自発的に考え、グループで話し合って協力し、自らの手を使って学ぶ内容を多く取り入れることで、生徒の意欲を掻き立て自発性やコミュニケーション力を高めている。試作品を作った後は、グループごとに自分たちが見つけた問題と、それに対する解決策として作った試作品を発表する。各グループがクラス全員の前で発表を行うことで、それぞれの成果を他者に認識してもらう場を設けると同時に、他者のアイデアからの学びにも繋がる。発表は担当教員と財団スタッフによって総合的に評価され、上位 1～3 位を表彰するとともにそれぞれの作品とグループとしての活動全体を通してのフィードバックを行う。
	「キャリア教育としての教育効果」についての具体的な取組、工夫している点など
	プログラムを通して生徒は自ら考え、発言し、手を動かすという実体験を通してエンジニアという仕事を学ぶ。実施後のアンケートでは、エンジニアの仕事を良く理解できたかどうか、そしてエンジニアの仕事に興味を持ったかを聞くことで、生徒の将来に対する興味の変化や気持ちを理解するよう努めている。

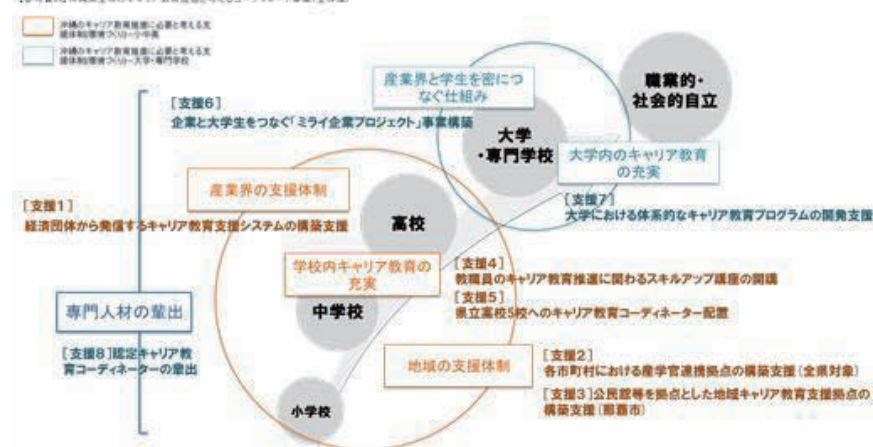
＜審査委員からの評価コメント＞

- 問題解決型ワークショップを通じて、ものづくり・技術の魅力を伝えるとともに、自ら問題を見つけ解決策をグループで考えることで、より実践的なキャリア教育を行っている。理系女性育成の支援や、活動を全国に拡大させている点も評価。
- 「技術・家庭科」に特化しつつ学習指導要領及び学校の教育活動との親和性を保持している点、事前の学校との話し合いの機会を設け学校のニーズ・要望を反映しつつ実践している点、教員研修プログラムの充実を図っている点が評価できる。
- 生活に身近な製品の分解を通じて、ものづくり、技術への興味関心を高められる。生活の中の問題解決策をグループで考え、試作品を作成し、発表することを通じて工学、エンジニアの仕事の理解につながると共に、社会生活における問題にも興味を持ち、学習意欲の向上に繋がることが期待できる。
- 「ものづくり」を通して、技術の楽しさや重要性とともに、ものをつくる仕事の大切さや楽しさを学ぶことができる体験学習である。技術・家庭科の授業での展開により、教科における「材料と加工に関する技術」や「エネルギー変換に関する技術」の深化につながり、技術や理科教育の基盤拡大に期待ができる。

経済産業大臣賞（コーディネーターの部）

企業・団体名	有限会社オーシャン・トゥエンティワン
プログラム名	沖縄県全体のキャリア教育推進を考えたコーディネート支援
活動の内容 （概要）	沖縄県内に所在するキャリア教育コーディネート団体として、行政・教育委員会・社会教育施設・経済団体などしかるべき主体とともに、キャリア教育の推進に必要な支援体制等を構築するコーディネート業務を行っている。また、学校の支援としては、小学校～大学までを対象とし、学校の要望や校種などに応じたプログラム開発、地域人材や企業等を中心とした教育資源の紹介・調整などの支援をしている。 キャリア教育支援の仕組みを構築する際は、必ず産学官の協議会や連携会議を定期的に行うようにし、その主体(行政・教育委員会・経済団体・地域など)が実施する取組や事業において、継続的かつ効果的に連携を組み、具体的な取組に発展させられるよう会議運営等の支援もしている。 平成 20 年度からは、認定キャリア教育コーディネーターの輩出を積極的に行っており、キャリア教育についての知識や学校や社会のニーズをプログラムに編集するコーディネート力を持つ専門人材が核となって県内学校の支援を行うことで、キャリア教育の質を底上げできるよう取り組んでいる。 また、支援している全ての取り組みが県内に更に波及されるよう、平成 23 年度より年に一度『沖縄キャリア教育 EXPO』を実施。2 日間で約 30 のフォーラムや事例報告会等が同時に開催され、毎年約 1,000 名以上の関係者が来場し、教育委員会の取り組みが他地域の教育委員会へ、教員の取り組みが他の教員へ、経済団体の取り組みが他の経済団体へと展開する機会としている。

【参考資料】沖縄県全体のキャリア教育推進を考えたコーディネート事業(全体図)



キャリア教育推進体制を構築するために必要と考える6つの要素

【小学校～高校のキャリア教育推進に必要な要素】

- ① 業界のキャリア教育参画の仕組み(体制)づくり
- ② 各市町村レベルの産学官の連携拠点づくり
- ③ 学校内支援—実際にキャリア教育を実施する教職員の実践スキルの向上支援

【大学または大学生のキャリア教育推進に必要な要素】

- ④ 大学内—大学や業界の実態に合った体系的なキャリア教育カリキュラム開発
- ⑤ 中小企業と若者のミスマッチをふせぐ早期からの出会いの場を創出する仕組みづくり

【全体として必要な取組】

- ⑥ キャリア教育や学校教育の支援に専門性をもつコーディネート人材の輩出



学校の教職員のキャリア教育の実践力等を向上させるため研修や研究会等を数多く実施

活動の内容 (詳細)	「有効性」についての具体的な取組、工夫している点など
	各学校種や学校等の状況や地域の環境などに合わせてキャリア教育の推進に必要なと思われる支援を、主体者との検討のもと進めている。また、学校内の支援についても、学校や取り組みたいと思う教職員のニーズや活用できる時間や児童生徒の実態に即した授業プログラム等を共に考え導入する。 これにより、対象となる児童生徒・地域の実態に合ったキャリア教育の推進が可能となると同時に、主体者自身のキャリア教育についての理解や実践に対する自信も上げることができ、単発の取り組みで終わることなく継続的な取り組みに繋げることができている。
	「支援実績」についての具体的な取組、工夫している点など
	県内の幼・小・中・高～大学を支援の対象とし、離島の学校の要請についても、可能な限り対応している。また、支援にあたっては、教育委員会や行政、経済団体など、キャリア教育の取り組みを実施したいと考える団体との協働のもと事業を推進する。また、その取組は長期的に計画し、モデル実施にとどめず、2年目、3年目と他団体に波及できる形での取り組みとし、発信できるようにしている。 ＜支援実績例＞ 平成24～26年度に那覇商工会議所青年部にて「お仕事せんせいプロジェクト」を立ち上げ。その事業を通じて「自社オリジナルキャリア教育授業作成ワークショップ」と出前授業プログラム「おしごとせんせい」を開発。平成27年度は更に多くの地域に波及できるよう発信し、那覇市若狭公民館エリア・那覇市繁多川公民館エリアにおける「お仕事せんせいカタログプロジェクト」に波及させている。
	「産学の関係構築への貢献」についての具体的な取組、工夫している点など
	キャリア教育支援の仕組みを構築する際は、必ず産学官の協議会や連携会議を定期的に行うようにし、その主体(行政・教育委員会・経済団体・地域など)が実施する取組や事業において、継続的かつ効果的に連携をくみ、具体的な取組に発展させられるよう会議運営等の支援も行っている。 ＜産学官連携支援の事例(平成27年度事例より一部)＞ ○『若狭地域教育協働推進協議会』の立ち上げ・運営支援 ○『なはグッジョブ連携協議会』の運営支援 ○ 沖縄県全域を対象とした市町村地域拠点形成のための事業における評価指標開発の委員会の立ち上げと運営支援(『沖縄県地域プラットフォーム事業』) ○『沖縄地域インターンシップ推進協議会』 ○『与那原町キャリア教育産学官連携担当者会議』

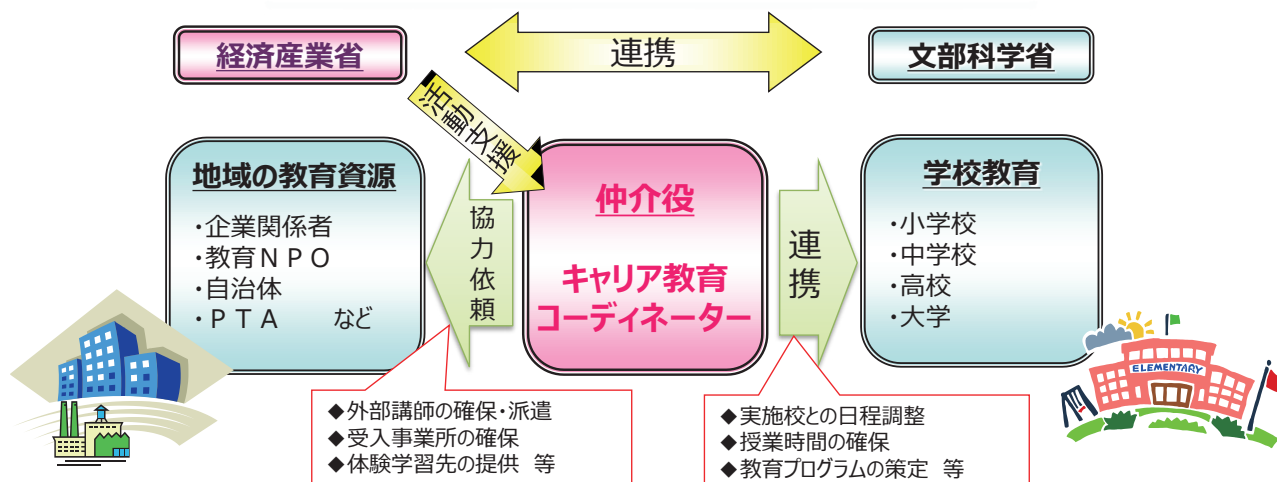
＜審査委員からの評価コメント＞

- 公的な機関、大学なども巻き込んだしっかりとしたプログラム。県内各地域の実情、教育の段階に応じた多様なプログラムづくりに対応できる体制は評価できる。
- 県全域で経済団体、大学、行政等が幅広く連携し、多様なキャリア教育の場をコーディネートされており大変有用な取組と考える。
- 沖縄県における多様なキャリア教育実践への支援及びコーディネートを、多様な組織・機関等との連携を図りつつ行い、これらの支援を継続的に発展させてきたことが高く評価できる。
- 沖縄の特徴をいかし、各主体(学校等)に合ったプログラム作りをしているため、教育コーディネーターの役割は重要で、今後の期待も大きくなるだろう。
- 地域のニーズに応じたキャリア教育を総合的に支援している。小学校から大学までの学校段階に応じたプログラムが計画されており、生徒のニーズにあったキャリア教育の支援がなされている。豊富なプログラムにより、学校の実態に即した指導が展開されている。

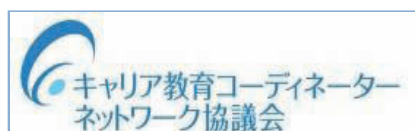
経済産業省によるキャリア教育への取組 ～キャリア教育コーディネーターの育成支援～

地域・社会の持つ教育資源の活用のため、地域・社会と学校との仲介役として「キャリア教育コーディネーター」の育成を支援（平成17～22年度）。
キャリア教育コーディネーターの育成・認定等を担う民間団体として平成23年1月に「一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会」（<http://www.human-edu.jp/ccec>）が設立され、現在約260名のコーディネーターが全国で活動を行っている。

「コーディネーター」を置いたキャリア教育支援のイメージ



（参考）キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会認定の 全国のコーディネーター育成機関

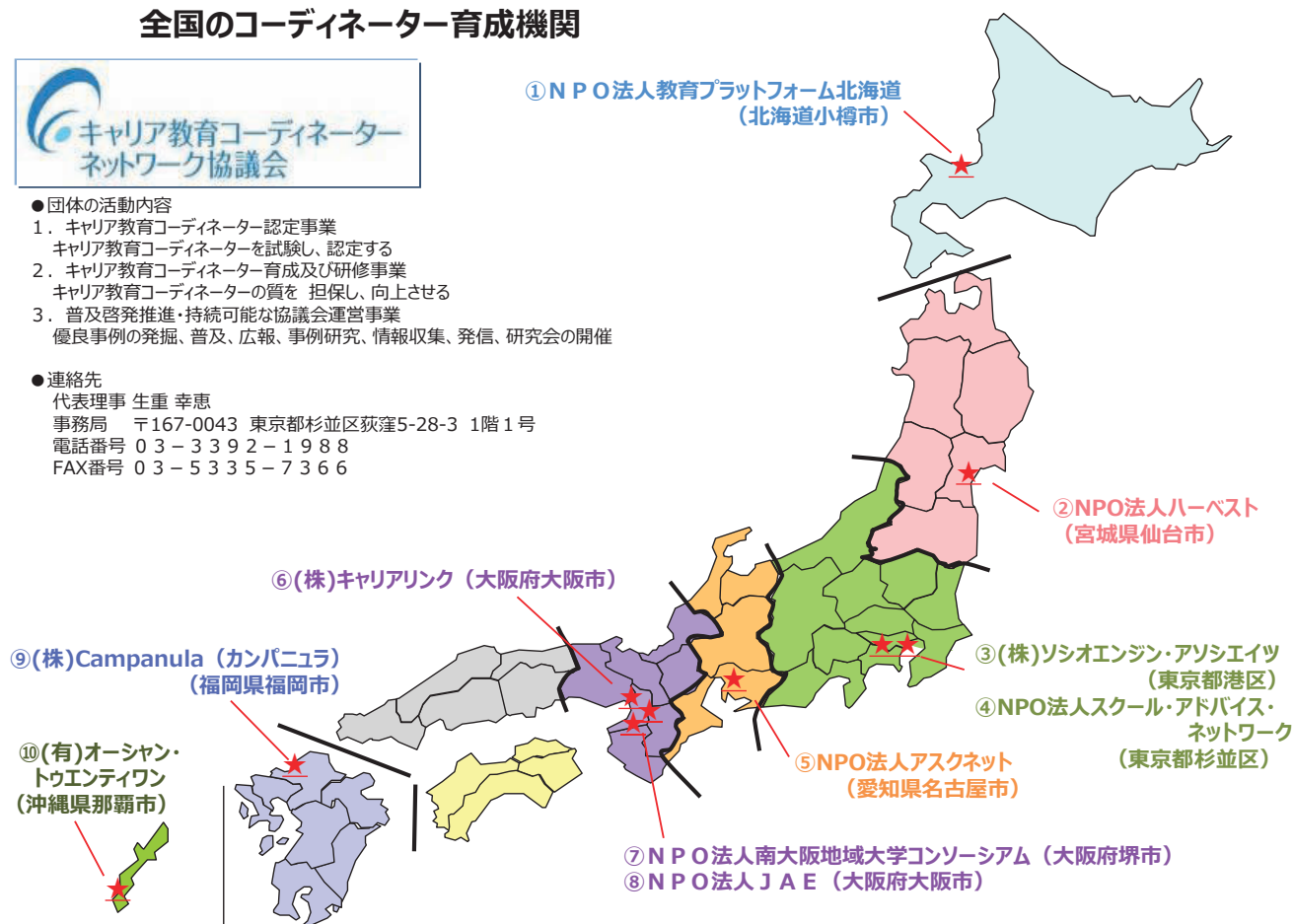


●団体の活動内容

1. キャリア教育コーディネーター認定事業
キャリア教育コーディネーターを試験し、認定する
2. キャリア教育コーディネーター育成及び研修事業
キャリア教育コーディネーターの質を担保し、向上させる
3. 普及啓発推進・持続可能な協議会運営事業
優良事例の発掘、普及、広報、事例研究、情報収集、発信、研究会の開催

●連絡先

代表理事 生重 幸恵
事務局 〒167-0043 東京都杉並区荻窪5-28-3 1階1号
電話番号 03-3392-1988
FAX番号 03-5335-7366



各部門のエントリー事例

- ・ 大企業の部
- ・ 中小企業の部
- ・ コーディネーターの部

大企業の部 優秀賞

企業・団体名	日本生命保険相互会社	
プログラム名	中学生・高校生向けプログラム ～将来について考えよう～	
活動の内容 (概要)	少子化・高齢化等、社会環境が変化する中、主体的に考え行動する人材づくりを目的として、従業員が講師となり、中学生・高校生が人生を考える機会（出張型・受入型）を提供している。 出張授業では、講師が学校を訪問し、就業・結婚・育児・老後等、将来迎えるライフイベントについて、社会環境の変化や必要資金の視点で解説し、将来設計の重要性を伝える。受入授業では、生徒が本社や来店型店舗ライフプラザに来社し、出張授業の内容に加えて、職場見学や先輩社会人との座談会を体験する。 ベースの授業パッケージでは、まず、初婚年齢・出生率・平均寿命等、ライフイベントに関するクイズを通じて社会環境の変化への興味喚起を行い、次に6名1班のグループワークで、「将来持ちたい家庭の姿」「大人になった時の責任」等について生徒同士で意見交換する。その上で、生活費や教育費等の必要資金を紹介することで、就業や社会参加の重要性を学び、主体的に将来設計に取り組むきっかけとするとともに、生徒自身が将来の社会を担っていくという自覚につなげることを目的としている。 プログラム内容は予め学校の先生と事前打合せを行うことで、教育現場のニーズや導入する授業科目（総合的な学習の時間、道徳、家庭等）に合わせて内容を調整しており、講師についても、幅広く社内人材（アクチュアリー[保険数理人]、資産運用、国際業務、保険実務 等）を活用し、学校の要望に応じた対応をしている。	
	（滋賀県公立中学校 出張授業） ・出張授業「クイズ」の様子 ・結婚・出産というライフイベントについて、合計特殊出生率を出題し、少子化の現状についても解説 ・その後、「グループワーク」で「家族を持った時、親になった時の責任」について、意見交換・発表を実施	
	（東京都公立高校 受入授業） ・受入授業「座談会」の様子 ・基本の授業を終えたのち、先輩社会人と仕事のやりがい等について自由に意見交換を実施 ・理系クラスということで、アクチュアリー（保険数理人）が対応し、保険商品の開発や会計等、専門業務をわかりやすく説明	

＜審査委員からの評価コメント＞

- 学校だけでは展開が困難である生涯のライフキャリアについて、生命保険会社のエッセンスを活かしながら、わかりやすく実践されている。特に、就業・結婚・育児・老後の生徒がイメージしにくいライフイベントについて、金銭の実情、責任、リスク等を取り上げている点は、生徒にリアリティのある将来を考えさせている。
- 人生モデルを俯瞰的に概観することで、自分の人生観や今後の歩みを意識し、人生を考えることからライフプランを考えるきっかけを与えることができる点が有用である。

大企業の部 奨励賞

企業・団体名	株式会社ユニクロ
プログラム名	“届けよう、服のチカラ” プロジェクト
活動の内容 (概要)	次世代を担う子どもたちに、身近な“服”を通じて世界に目を向け、自分にできる社会貢献があると気づくきっかけになって欲しいという思いから、教育機関と連携して、着なくなった「子ども服」を回収し、難民キャンプ等の世界で服を必要としている子どもたちへ届けるプログラムを行っている。 プロジェクトでは、まず、従業員が学校を訪問し「服の持つチカラ」や「難民問題」等についての出張授業を実施。その後、学校と児童生徒が主体となって、告知ポスターや回収ボックスをつくり、校内や地域に服の回収を呼び掛ける。回収された服は倉庫に発送後、選別・梱包を経て、世界の子どもたちのもとへ届けられる。最後に、活動してくれた児童生徒へのフィードバックとして、難民キャンプに服が届いた様子をフォトレポートにまとめ、学校へ届けている。 参加した生徒からは「私たち一人ひとりの行動が命を助ける行動につながる」「世界の子どもたちを笑顔にしたい」という力強い声があがっている。参加校の先生からも「生徒が頼もしく思えた」「地域との接点ができた」「誰かのために働くことができる」という自己肯定感を感じていた」などの意見があり、国際問題への関心を広げるだけでなく、自発性や問題解決能力の育成、地域との連携の機会、自己有用感の醸成等にもつながっている。
	【生徒と対話する出張授業】 ・服のチカラってなんだろう？ ・難民の生活は？ ・どうしたら服が集められる？ など生徒に問いかけ、できるだけ生徒自身に考えてもらい授業を進める。 写真は 2015 年度・多賀城市立多賀城八幡小学校（宮城県）の様子。先生が「東日本大震災で被災した子どもも多い。これまで頂いた支援のお返しがしたい」と応募。
	【地域を巻き込んだ回収活動】 近隣の幼稚園や小学校に声をかけたり、病院や市役所、企業、商店街を巻き込んだり、地域の TV 局・ラジオ局と連携して告知したり、学校ごとに工夫した回収活動が行われる。 写真は 2014 年度・岡山市立西大寺南小学校（岡山県）での回収の様子。近隣の幼稚園に回収ボックスを置いて、児童自ら協力を呼びかけた。

＜審査委員からの評価コメント＞

- 「服」という題材を通し、国際理解教育、家庭科教育、福祉・ボランティア教育等と幅広い観点から総合的なキャリア教育の実施につながっている。その汎用性の広い学習内容から、小学校低学年から高等学校まで、児童生徒の発達段階にあったキャリア教育が、理論のともなう考え方や実践を交えながら展開されている。
- 服を通じて国際問題、環境問題に視野を広げさせるという点、服の回収という取組の中で地域との係わり、問題解決など体験させるところが有用である。

大企業の部 奨励賞

企業・団体名	株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ 株式会社三菱東京 UFJ 銀行
プログラム名	“コミュニティへの貢献” に資する本業を活かした活動 MUFG 金融経済教育
活動の内容 (概要)	地域社会への貢献、次世代社会の担い手育成の観点から、金融リテラシーの向上を目指して、全国の拠点近隣地域の学校に対して銀行の仕事を通じて職員の価値観を気づき・学び取る“キャリア教育×金融経済教育”として、職場体験学習や出前授業等、金融リテラシーの向上とキャリア教育を推進している。 職場体験学習では、「金融経済・銀行の役割」の説明に加え、職員へのインタビューや支店業務体験等を通じ、普段訪れる機会が少ない銀行の仕事や銀行員という職業について興味・関心を抱き、「仕事をする上で大切にしていること」「チームで働くこと」等の職業観を学び取ってもらうカリキュラムを提供。出前授業では、金融は目に見えず観念的な講義中心になりがちで、興味関心の喚起が難しく、職員も説明しにくいことを踏まえ、パノラマ VR 映像制作会社との協働で「バーチャル店舗見学 MUFG MODE」を制作し、子どもの集中力を高め、職場や行員のリアルをビジュアルで伝え、将来の進路や働き方に対する意欲を醸成するコンテンツを提供している。また、理解定着に向け、学んだ内容を整理する「学習ノート」を提供している。 担当職員の取組の質向上と負担軽減のため、事前調整から当日、事後対応等の方法を「実施ガイド」で提供するとともに、小学校から高校まで各レベルに合わせたプログラムや、学校のニーズに沿って自由に選択できる科目群を提示している。実施後は、生徒アンケートや拠点からの意見聴取で質や満足度を確認し改善に繋げている。 全国的な普及に向け、各拠点の近隣にある学校をリスト化し、戦略的な普及活動を行っている。
	
拠点での職場体験学習風景。 札勘体験の講義で、生徒に札勘の方法を教える職員。	高校での出前授業の様子。 生徒に笑顔で語りかける職員。

＜審査委員からの評価コメント＞

- 金融系列という業種のエッセンスを活かし、金融経済教育を中心としてキャリア教育に迫っている。プログラムや教材等も整っており、各学校で比較的シンプルに展開しやすい。学校現場ではあまり得手ではない、金融、金銭、経済教育の深化にもつながる。
- 金融経済教育を通じて、学校の中だけでは学ぶことの難しい、働くことの意義やビジネスマナー、職業観・勤労観を身に付けることのできる取り組みとなっている。
- 職場体験と出前授業の実地で終わらせず、「学習ノート」等により、理解定着と教育効果を高める工夫をされている点を評価する。

大企業の部

企業・団体名	株式会社エー・ピーカンパニー 株式会社地頭鶏ランド日南
プログラム名	ツカラボ（塚田農場キャリアラボ、塚田農場体験ラボ、塚田農場おもてなしラボ）
活動の内容 （概要）	自社アルバイト学生における、将来の一日も早い社会的自立を支援することが企業としての社会的責任であると捉え、就業観を育むことを目的に、2011 年より就活支援プロジェクトを行っている。 “答えは教えない”、“人格を磨くための学習機会の提供”という理念のもと、「塚田農場キャリアラボ」において毎月の就活支援セミナーやキャリアカウンセリングなどを実施し、自己理解と企業理解を通じて、学生が自分なりの正解≒納得解を導くことをサポートしている。 また、2015 年には「体験から自分の言葉をつくる」ことを目的とし、「塚田農場体験ラボ」を創設。学生が日本全国の一次産業現場(養鶏・漁業・酒蔵・野菜農家)でフィールドワークを行い、課題解決に向け、現地での養鶏・漁業体験などの実務体験や、生産者インタビュー、グループワーク、生産者や行政へのプレゼンテーションを行うというプログラムを提供している。また、事前・事後学習ではキャリアにおける考え方の講義を行い、現地でも学生自身の内省機会を支援している。 これらの取り組みには他社企業からも協賛を得ており、就活開始前に、キャリア教育という観点から「ツカラボ生」が企業を理解する場の提供を行っている。
	月に一度開催している就活支援セミナーの様子。 副代表が登壇する他、ゲスト講師として様々な業界・職種の社会人を迎える。一方的な講義だけではなく、個人ワークやグループディスカッションを行い、記憶の定着や学びを深める工夫をしている。
	2015 年 9 月に行われた「体験ラボ」の養鶏体験(宮崎県)の様子。餌やり、デビーク(雛のくちばしを溶かす)、放血(と殺)を体験する他、鶏舎の中では、「弱き者は淘汰される」という現実にも直面する。 「食産業にビジネスとして携わるとはどのようなことか？」 時には涙を流しながらも、学生たちは現実を知り、「命を扱うということ」「消費者教育の必要性」「流通の矛盾」「プロフェッショナルリティ」などの切り口から学びを得て行く。

大企業の部

企業・団体名	かりゆしグループ
プログラム名	観光文化事業 「おきなわの観光」意見発表コンクール・「おきなわの観光」絵画コンクール
活動の内容 (概要)	沖縄の豊かな自然風土・歴史・文化などを見つめ直し、新たな沖縄の魅力を再発見するとともに、郷土愛を育み、観光産業について考え理解をする機会を設けることで沖縄の観光の発展に繋げることを目的に、株式会社かりゆし創業40周年記念事業「観光文化事業」の一環として、平成14年（2002年）より意見発表コンクール、絵画コンクールをスタート。 ○「おきなわの観光」意見発表コンクール 「小学校の部」「中学校の部」「高等学校の部」「専門学校及び大学の部」の4部門にて審査を行いグランプリ・最優秀賞・優秀賞・優良賞・学校特別賞（グランプリ全体より1名/その他各部門）を選出する。小学生から高校生までは作文形式、専門学校・大学はプレゼンテーションでの発表となっている。コンクールを通して、意見や考えをまとめ発表することで表現力を養い、文化的資質の向上を図っている。 ○「おきなわの観光」絵画コンクール 「小学校低学年の部」「小学校高学年の部」「中学校及び高等学校の部」の3部門にて審査を実施し、それぞれ最優秀作品賞・沖縄県ユネスコ協会会長賞・優秀作品賞・審査員特別賞・佳作・入選・学校特別賞を選出する。昨年の第13回目より「沖縄県ユネスコ協会」と共同開催にて開催している。
	○「おきなわの観光」意見発表コンクール本選（表彰式）発表風景の様子 専門・大学の部（プレゼンテーション形式） 最優秀賞受賞 国立大学法人琉球大学 金城 有紗さん 演題：SIMA ZO-RI で歩む！FI-WA（平和）への道
	○「おきなわの観光」絵画コンクール選考会の様子 「小学校低学年の部」 「小学校高学年の部」 「中学校及び高等学校の部」に分けて審査する。 （会場：沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ）

大企業の部

企業・団体名	JAIMA サマーサイエンススクール実行委員会
プログラム名	一般社団法人日本分析機器工業会(JAIMA)主催 中・高校生向け分析機器体験講習会「JAIMA サマーサイエンススクール」
活動の内容 (概要)	最近では、日本人がノーベル化学賞や物理学賞を受賞することは格段珍しいことではなくなってきているが、その一方で学生の理科離れが危ぶまれている。幼い頃、誰もが一度は興味を持つ宇宙の不思議や自然界の摂理に対する素朴な疑問は、日々の生活に追われる過程で段々と薄れていってしまう。このような問題意識から、JAIMA サマーサイエンススクール実行委員会では、2012 年 7 月より毎年、分析機器の体験講習会「JAIMA サマーサイエンススクール」を日本科学未来館で開催している。 中学・高校生を対象に、学内では触れることのできない最先端の分析機器を各企業が持ち寄り、実際に操作体験してもらうことで、様々な産業を支える基盤となっている分析機器・技術について理解を深め、科学技術への関心を高めてもらうことを目的としている。また、プログラムの効果を高めるために、予め分析機器の仕組みを解説した資料を学校関係者に配布することにより、学習者に事前学習を求めるなどの工夫もしている。 協力企業からの講師は、ほとんどが技術系社員であるため、講習を通して、科学技術に関連する職業について受講者が肌で感じることができ、職業観の育成にも寄与している。
	JAIMA サマーサイエンススクール開催要旨説明の様子。 学習者 65 名に対して、実施要綱を説明する。その後、1 グループ 3～4 名に分かれて、分析機器の体験学習が開始される。どの分析機器が体験できるか、学習者も緊張と期待感があふれる。
	グループ学習の様子。 JAIMA サマーサイエンススクール協力企業による「卓上電子顕微鏡」を学習しているところ。試料は「葉や花粉」など学習者が親しみやすい物に特化している。学習者は「大学の研究者」と同じように、卓上顕微鏡を自由に操作する事ができる。科学に対する興味を一層誘う学習内容となっている。

大企業の部

企業・団体名	株式会社ジェイティービー
プログラム名	CAS PROGRAM
活動の内容 (概要)	全国の高校を対象に、①将来を考えるきっかけづくり、②なぜ学ぶかを学ぶ、③生きる力を身につけること等を目指したプログラムとして、学校行事や授業の中でキャリア開発Ⅰ～Ⅲまでを一連の流れとして実施している。 事前の課題ヒアリングから始まり、プログラム終了後は、各単元で生徒からとったアンケートの集約データを持って学校へのフィードバックとプログラム終了後の生徒の変化などの確認を行っている。 ○キャリア開発Ⅰ：自己理解（現在の職業に対する意識を確認し、グループワークを通じて働く理由を考える） ○キャリア開発Ⅱ：「イキイキ働く社会人」とのパネルディスカッション（社会人とのコミュニケーションからイキイキ働くための職業観・勤労観を感じとる） ○キャリア開発Ⅲ：発展学習選択コース（社会に必要なスキルと将来を考える） ※各校に合わせて選択（社会に必要な能力を見いだすコース/女性が社会で活躍するためのコース/グローバル社会での競争を生き抜くためのコース）
	キャリア開発Ⅱのパネルディスカッションの様子 専任ファシリテーターとイキイキ社会人 3 名、代表生徒 1 名が前に出てディスカッションを行う。 ※写真は最初のイキイキ社会人の自己紹介の様子
	キャリア開発Ⅲの発展学習のグループワーク様子 ※写真は班ごとに分かれて生徒 1 人 1 人が考えたことをアウトプットし、他者との比較をしている様子。

大企業の部

企業・団体名	株式会社ダスキン
プログラム名	学校掃除教育支援活動 ～みんなでつくろう キレイをいっしょに～
活動の内容 (概要)	ダスキンでは「喜びのタネをまこう」の経営理念を実践し、「掃除の大切さを、次世代を担う子どもたちに伝えたい」「掃除を通して子どもたちの力を伸ばしたい」という想いを込めて、「お掃除の会社」として、以下の教育貢献活動に取り組んでいる。 ① 小学校対象の出前授業 キレイのタネまき教室「おそうじについて学ぼう！」 ② 教員向けセミナー「子どもたちの力を伸ばす学校掃除セミナー」 2011年には「学校掃除サポーター制度」を発足し、全国展開に向けた実施体制を構築。全国のダスキン加盟店の社員を中心とする「学校掃除サポーター」が出前講義を行い、ダスキン本部社員から選出された「学校掃除マスター」「学校掃除アシスタントマスター」が教員向けセミナーや学校掃除サポーターの育成を担当している。 2015年度からは、小学校中学年や高学年を対象とした新たなプログラムの開発を進めるとともに、全国のサポーターを対象に「学校掃除サポーター勉強会（全国共有会）」を開催し、質・量の両面において、さらなる充実に取り組んでいる。
	小学校向け出前授業 キレイのタネまき教室「おそうじについて学ぼう！」 どうして掃除をするのか、掃除の必要性や意義を考えた後に、掃除用具の正しい使い方を学ぶ。 なぜその使い方がよいのか、講師がわかりやすく解説し、実習をすることで、児童の理解が深まり、学校や家庭での掃除への意欲を高める。
	教員向けセミナー 「子どもたちの力を伸ばす学校掃除セミナー」 掃除時間を「子どもたちの力を伸ばす時間」として活用するためにはどうすればよいのか、改めて見つめなおす教員向けセミナー。 学校掃除の基礎知識についての理解を深めたり、グループで「理想の教室掃除」の計画を立て、実習を行ったり、体験活動を中心としたセミナー構成で、学校掃除について楽しく理解を深めることができる。

大企業の部

企業・団体名	一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）
プログラム名	JEITA人材育成関連委員会の登録企業15社による 「中学生・高校生のためのIT・エレクトロニクス講座」
活動の内容 （概要）	同協会の人材育成関連委員会のメンバー企業が中学生・高校生を対象として、出前授業を実施。IT・エレクトロニクス産業の概要や魅力、身近な製品の仕組み等について楽しく学ぶことにより、理数系の勉強の重要性について一層理解を深めるとともに、「ものづくり」の楽しさを伝え、IT・エレクトロニクス産業に対する興味を持ってもらう内容となっている。 実施にあたっては学校側と授業内容等の打ち合わせを行い、「科学やものづくりの楽しさを伝えたい」、「理数系離れを何とかしたい」、「理系・文系の進路決めのキッカケを与えてあげたい」など、学校側からの様々な要望に答えている。 授業では、参加者を班分けして商品の企画を行ってもらい、代表者にプレゼンさせたり、ロボットによるデモンストレーションを行ったりするなどの工夫をしている。 また、毎回参加生徒を対象にアンケート調査を実施し、講師にフィードバックを行うことにより、都度、内容の改善に努めている。
	東京女学館高等学校 （2015年5月27日実施） 高校1年生を対象に、理科系の仕事とはどういうものかを、企画、製造、研究開発、営業など、さまざまな角度から説明。
	藤嶺学園藤沢中学高等学校 （2015年7月28日実施） 中学1年生～高校2年生を対象に、インターネットやIoTとは何かを説明。その後、未来の商品企画を行ってもらい、グループの代表者がプレゼンする。

大企業の部

企業・団体名	日本電気株式会社
プログラム名	NEC世界子ども自然クラブ
活動の内容 (概要)	本プログラムは、子どもたちの自然環境に対する感受性やグローバルな視点の育成、環境教育におけるIT活用の可能性の検証を目的として、公益財団法人キープ協会と協働し、2007年度から実施している。プログラムの狙いは下記のとおり。 ○ 参加者自身が住む地域と交流相手の環境を比較し、その相違点・共通点を知り、互いの環境への理解を深める ○ 各地域の自然・文化を伝え合うことで、グローバルな視点を育て、同じ地球に住むというマインドを育成する ○ 相互理解の深化と交流の広がりから、世界はつながっていることを知り、「地球市民」としての意識を醸成する ○ IT技術と環境活動を融合させ、IT×EE（環境教育）の「可能性」・「発展性」・「夢」を体験させる プログラムは小学校4年生から6年生を対象とし、日本・マレーシア・台湾・中国に加え、2014年度よりフィリピンの子どもたちも参加。それぞれの開催地でNECの現地法人も関わり、3日間の自然体験・文化体験プログラムを行い、テレビ会議を通して交流する。 子どもたちが体験した感動や発見を他の開催地の子どもたちと共有することで、自分の住んでいる環境や文化の特異性を理解するローカルな視野と、環境の異なる開催地を理解するグローバルな視野を養っている。
	フィリピンの子どもたちとの意見交換の様子 (日本)
	稲刈り体験の様子 (マレーシア)

大企業の部

企業・団体名	バイエル薬品株式会社
プログラム名	生きるの教室
活動の内容 (概要)	「生きるの教室」は、2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで死亡するという現代の日本において、日本の未来を担う子どもたちに、命の大切さを伝え、がんの予防、早期発見の重要性と治療の啓発を通じて、生きる力を育むことを目的とした授業。がん教育に先駆的に取り組んでいる東京大学医学部附属病院 放射線科准教授/緩和ケア診療部長の中川恵一氏を特別講師とし、2011年の開始以降、パイロット校(1校)を合わせ、計15の中学校で「総合的な学習の時間」を活用して実施している。 プログラムは、子ども世代ががんを予防する生活習慣を身につけ、早期発見のための検診受診の重要性を理解することで、将来における検診受診率の向上とがん死亡率の減少につなげ、自分と他者の健康や命の大切さに配慮しながら人生を設計する生きる力を育むことを主眼とした教育内容となっている。また、子どもたちを通じた親世代への教育効果により、親世代における生活習慣の改善や検診受診率向上を促すと共に、周囲のがん患者を支える社会のあり方や他者の命を尊重する社会のあり方を子どもも親も一緒に考えるきっかけとなる内容を工夫している。さらに、授業では、医療関係者やがん経験者の協力を得ることにより、真剣に命と向き合う大人の生き方や考え方にも触れることのできるキャリア教育の要素を組み込んだ内容となっている。
	授業の前半は、映像教材を活用したレクチャー形式で進行する。授業冒頭、オリジナルムービー「いきるぞう〜いのちの河のものがたり〜」を上映し、当たり前のように見える日常や命には限りがあり、人類の歴史で誕生した一人ひとりの命や人生にどれひとつとして同じものはなく、かけがえがないというメッセージを伝え、講師から生徒たちに、「今日の授業では、日本人の2人に1人がなると言われるがんについて学ぶとともに、かけがえのない命についても考える時間にしてほしい」と伝える。続いて、医療関係者によるがんという疾患・予防法・早期発見のための健診の重要性・治療の選択肢に対する理解を促すレクチャーと、実際のがん経験者による体験談を行う。生徒にがんの知識を伝えるとともに、実際にがんになった経験者が、がんという経験を通じてどのような気づきを得たか、また周りの人々や社会から患者にどのようなサポートが必要かを学ぶ。
	授業の後半は、“がんと生きる”をテーマとした意見創発型のワークセッション形式となっており、生徒たちに、がんを自分の問題として捉え、自分たちにできる対策を考えることを促すことを目的としている。 前半の授業で聞いたがんに関する知識・患者の体験談を振り返りながら、自分の大切だと思う人を想起・喪失の体験(その人がいなくなったら自分はどう感じるかを想像)・希望(その人を守るために自分は何ができるか)の3ステップの思考を実践し、じぶんや周りの人のがんを予防・早期発見するために何ができるか、患者さんのために何ができるか、考えを深める。 がんや命という大きなテーマで個人ワーク・グループワーク・グループ発表を行うことを通じて、生徒たちの問う力・対策を考える力・他者の考えや命に思いを馳せる力が発揮される。

大企業の部

企業・団体名	株式会社リクルートキャリア
プログラム名	キャリアフル CAMP!
活動の内容 (概要)	「ひとりでも多くの人たちが『働く喜び』を膨らませ、『働く喜び』の輪が、新たな活力を生み出している社会を創りたい」というビジョンのもと、学生が「ありたい姿」と「仕事を通して実現したいこと」を見つけられるよう、学生自身の“気づき”をサポートするとともに、入社後も自分自身の持ち味を生かして、いきいきと主体的に働ける人を増やすことを目指して、2015年6月より、大学低学年から「働く」を考える様々な機会を提供する「キャリアフル」を開始。2015年9月現在、32,000名を超える学生が利用している。 「キャリアフル」の核となるプログラムである「キャリアフル CAMP!」は、企業・官公庁・NPO協賛によるPBL型仕事体験ワークプログラム（※PBL型＝課題解決型学習）。学生が「自分自身の働く価値観についてもっと知りたくなり、社会についてもっと知りたくなる」という目標のもと、大学生・大学院生を対象に、仕事・ヒトを通して自身のキャリアや将来について考えるきっかけとして、各協賛企業・団体が提供する仕事体験ワークを学生が主体的に行い、自己内省を深めることによって、仕事のやりがいの自分ごと化、および自身が将来どうありたいかの意思発見支援を行っている。
	「仕事を知り、体験する」 実際に活躍している社員が、具体的な仕事内容や、どんな想いで働いているかを話す。さらに、実際に起きている企業の課題について、グループワークに取り組む。 社員からビジネスの観点でアドバイスをもらいながら体験することで、よりリアルに働くイメージが持てることが特徴となっている。
	「自分らしさを知る」 「将来ありたい自分を考える」 仕事体験を通して感じたことをもとに、現在の自分らしさとは何かについて考えたのち、将来どんな仕事につきたいか、どんな自分でありたいか、またそれらを明確にするためにどんなアクションがこれから必要かについて考えていく。

大企業の部

企業・団体名	ロート製薬株式会社
プログラム名	ロート製薬株式会社「薬育プログラム」～健康で快適な生活をおくるために～
活動の内容 (概要)	本プログラムは、2005年に全社社内公募で「ARK（明日のロートを考える）」というプロジェクトが立ち上がり、その中から薬に携わるものとして、次世代支援を行いたいという想いと、薬の知識を伝え身につけることで生活を快適にしたいという願いから中学生、高校生向けに薬の教育（「薬育（やくいく）」）を開始したもの。 社員ボランティアによる「薬育」活動をベースに、健康で快適な生活を送るための「正しい薬の選び方・使い方」を基本とし、健康的な日常生活を送るために必要な知識の習得や、思考力の育成を目的として実施。社員ボランティアによる出張授業の実施のほか、そのノウハウを活用し、保健体育「医薬品の正しい使用」の単元で教員が活用する教材の提供も行っている。 「薬育」活動では、主に中学校・高等学校を対象に、社員が講義先となる学校へ向かい、先生や生徒の方々と直接触れ合い、薬の基礎知識や説明書の読み方などについて、実験を交えながら授業を進めることで、生徒には普段とは違う「特別な授業」を提供している。 活動は本社のある大阪から開始したが、2008年の改正薬事法施行の規制緩和により大衆薬がどこでも購入できるようになったことを受け、中学校の保健体育の学習指導要領にも「医薬品の正しい使用」が追加されたことで、学校からのニーズが広がったことにより活動が加速し、東京オフィスにおいてもボランティアチームが発足。今年で、10年目の活動となっている。
	ボランティア社員による出張授業 左上： 各テーブルに1人社員がつき、授業のフォローを行う様子 右上： 授業を聞いてワークブックへ書き込む様子 下：ボランティア社員が講義をしている様子
	教材の無償提供 教材イメージ ワークブック、ティーチャーズガイド、スライド、CD-ROM、実物教材など

優秀賞

企業・団体名	一般社団法人アルバ・エデュ
プログラム名	子どもたちに世界に伝わる「発言力」を ～Why not speak up?～
活動の内容 (概要)	自分の意見や考えを堂々・ハキハキと論理的に表現・伝達する力を「発言力」として、人が国際社会で活動し貢献していく上で欠かせない力であるとの認識のもと、2014年に活動を開始。ビジネスの現場など、グローバル社会の中において、現状、日本人の「発言力」が殊に弱く感じられる一方、既存の教育制度の枠組みでこの力を強化していくには限界があるとの考えから、企業法人向けに情報発信のアドバイザーを行ってきたメソッドを応用して、プログラムを実施。 「発言力」の強化には、基本的なアウトプットに要するプレゼンの基本スキルのみならず、根本となる対話力、論理的に物事を整理する思考力、自己洞察や異文化・多様性への理解を通じたアイデンティティーの確立、声や身体や資料のビジュアルデザインを使った表現力といった各種要素が欠かせないことから、伝えることの大切さを共有した上で、これら各要素を強化するプログラムを盛り込みつつ、最終的なアウトプットである「発表」や「プレゼンテーション」をする場を多く経験してもらえよう、取り組んでいる。 2014年夏以来、幼稚園・小中学校・大学に赴く出前授業、教員や保護者向けセミナー、小学生を中心に未就学児から大学生まで各成長段階に応じたワークショップの開催などを通じて、これらの活動理念の実現に邁進。また、家庭や地域社会における対話を促進するイベントを開催し、発言する上での基本となる力である対話力の向上も図っている。
	夏休み特別企画イベント「おとなもこどももいっぱい話そう！ワールドカフェ@スウェーデン大使館」での集合写真。スウェーデン大使館広報担当からスウェーデンのお国事情についての話の後、未就学児（年長）から大人までの総勢100名弱で、感じたこと、日本との相違、日本が採用したほうが良い部分等について対話をした。自分のことを知らない幅広い年齢層に対して、自分の意見を述べ、理解してもらおうという力を伸ばす点に注力。
	文京区立関口台町小学校での出前授業 国語の「プレゼンテーション」の単元で、児童たち自身が授業内にプレゼンテーションをする予定にあることを受け、その準備のために、出前授業を実施したときの様子。 「伝えることの大切さ」を話した後、実際のプレゼンテーションの様子を見せ、その上で、気を付けるべき点をそれぞれに考えてもらった。 左の写真は、伝わるプレゼンには不可欠な発声を練習している場面。

<審査委員からの評価コメント>

- 「発言力」に焦点を当てつつグローバルな視点からプログラムを構築している点、未就学児から大学生までの多様な対象に対してそれぞれの学校等のニーズに応じて柔軟に対応している点、大使館を含む多様な機関・組織との連携がなされている点など、総合的に見て高く評価できる。
- 日本人が苦手な「話す力」を身につけさせる優れた取り組みで、未就学児から大学生まで幅広い年代の若者を対象としている。2014年にスタートし今年度大きな発展を見せている。

優秀賞

企業・団体名	公益社団法人日本ストリートダンススタジオ協会（NSSA）
プログラム名	校歌を通じて地元を学び、クラスが一つにまとまるキャリア教育 「ダンス アドベンチャー」
活動の内容 （概要）	「ダンスアドベンチャー」は小学3年生から高校1年生を対象に、ダンスを活用してチームの仲間と一緒に与えられたミッションに挑戦して、校歌に隠された謎を解決してゆくプログラム。真っ暗な体育館に集められた児童生徒は、未来からの使者「メモリー」からミッションを受け取り、これらをクリアし未来の子供たちを救う、という設定のもとダンスアドベンチャーはスタートする。 ミッションは5つからなり、①音楽（音楽のすばらしさを知る）、②地元調査（校歌の歌詞に隠された地元の歴史や産業、文化を知る）、③ダンス練習（校歌で踊る。地元の歴史や産業、文化を身体で表現）、④ダンス発表会、⑤全体の振り返り（新聞作り）という流れとなっている。実施にあたっては、音楽プロダクション会社や新聞社、元校長、図書館の館長、世界で活躍する一流のダンサーやゲーム制作会社がミッションをサポートする「マスター」として協力している。 ダンスアドベンチャーは最初から最後までチーム単位で活動をし、6日間12時間（標準の場合）のプログラムの中で、児童生徒は互いにぶつかり合い、悩みながらミッションをクリアし、ダンス発表会を成し遂げることで、コミュニケーション力、表現力、想像力とともに、チームでの協調性、発言力、伝える力、聞く力を育てていく。 プログラムの普及に向けて、実施に必要な情報を網羅したマニュアルを作成し、先生だけでもプログラムの実施が進められる体制を構築。また、先生向けのダンスアドベンチャー研修会を実施し、全国各地でダンスアドベンチャーが実施できる体制づくりに取り組んでいる。
	寝屋川市立第十中学校では、寝屋川市の元小学校校長が「リサーチマスター」として登壇し、寝屋川という地名について、「寝屋川の地名は『寝家』から来ている。昔このあたりは狩り場で、狩人がここで寝泊りをするための家がたくさんありました。寝る家があるところ→寝家→寝屋川となりました」という話をした。この後、リサーチマスターの話をもとに、地元を表現するダンスの振り付けを考えていく。
	地元調査でリサーチマスターから聞いた地元について、オリジナル振り付けで表現するために話し合っているところ。ここから、実際に身体を動かしながらダンスで表現していく。 ※タスキをつけている児童はダンス担当。チームの意見をまとめ、振付を決めていく。

＜審査委員からの評価コメント＞

- ダンスや音楽を通して、地域社会や生き方等を表現していくことは、全身を駆使し楽しみながら自己表現を深めることになる。各発達段階の子供たちに受け入れやすく、保健体育科の授業におけるダンス指導と必然的につながり、教科・キャリア双方のねらいをシンプルに達成できる。
- 体育における「ダンス必修化」により学校現場でのニーズが高まっている領域に特化した取組である点、「校歌」に着眼したオリジナリティ、参加する児童生徒の得意・不得意に応じた役割を与えている点、教員負担の軽減化及び学校による「自立化」の双方に配慮がみられる点などが評価できる。

奨励賞

企業・団体名	一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会
プログラム名	「魅力発信グランプリ 2015」 ①就活眼を育てよう！企業の見方・見つけ方セミナー ②「チームによるエントリー」 ③「事前講習会」 ④「企業への訪問取材」 ⑤「情報交換会」 ⑥「魅力発信レポート作成」 ⑦「魅力発信グランプリ」 ⑧「参加学生へのフィードバック」 ⑨「魅力発信グランプリ Web サイト公開」
活動の内容 (概要)	当プログラムは学生が2～4人でチームを作り、夏期休暇期間中の2～3日間地域企業を訪問し、経営者や従業員のインタビュー、施設、事業内容の取材を通して、学生が感じた「企業の魅力」を学生目線で同年代の学生たちにプレゼンする取り組み。 取材企業は抽選で決まるため、「最初は興味のない業種や企業でも、自分が直接取材して詳しく知ると興味が湧いてくる」ことを学生が体験する機会となる。取材を通して、地域中小企業ならではの業務にやりがいを見つけ、さらに就活時の視野を拡大することを目的としている。学生の主体性を重視するため、企業訪問のアポ取りからプレゼン発表まで、学生がすべてプランを考え、自主的・能動的に行動するのが特徴。 中国5県の大学と連携し、キャリア教育等の授業で「企業の見方・見つけ方」を伝えるセミナー実施。「働くとは何か」「企業を知ると意識が変わる」ことをセミナーで学んだ後、地域中小企業に興味を持った学生が当プログラムにエントリーする。企業訪問前には、取材時に必要なビジネスマナーやTV番組プロデューサーによる企業取材ノウハウを学ぶ講習会を行ない、学生のスキルアップも支援している。 取材終了後は情報交換会にて、取材訪問の前後で企業の見方にどのような変化があったかを学生間で意見交換し、就活時の企業選択の要素として「自分にとって何が大切か」を改めて考える場を提供。作成したプレゼン内容は、取材対象企業の採用資料としても役立っている。



■企業取材

安田女子大学3年の学生が企業を取材訪問。取材先の決定は抽選となっており、くじを引いた学生があたったのは、(株)宇根鉄工所。女子学生には関心が薄い業種であったが、社長や社員へのインタビューを通じて、製品への想いや社長の経営理念などを知り、どんどん興味を持つようになっていった。



■魅力発信グランプリ発表風景

企業取材を終えた学生チームは、企業の魅力をパワーポイントの資料(8分間)にまとめ、学生と企業の前でプレゼンテーションを行い、最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞を競う。

審査中の時間は、各大学の参加者をグループ分けし、訪問した企業の感想やこれからの就活についてディスカッションした。

<審査委員からの評価コメント>

- セミナーや訪問取材等を通じて、地域の中小企業の魅力発信を行い、学生が就業観や勤労観を見つめ直し、就職における学生の視野拡大に資する取り組みとなっている。
- 学生が「企業訪問～企業調査～発信」というアクティブ・ラーニングを行うことで、キャリア教育の求める社会人基礎力とともに基礎的・汎用的能力を主体的・能動的に養うことができる。就職活動というひとつの進路選択・決定を前に、働くことの意義を考える学びのステージとなる。

奨励賞

企業・団体名	京都商工会議所 環境・エネルギー特別委員会
プログラム名	小学生への環境学習事業
活動の内容 (概要)	「京都議定書」採択の地である京都の子どもたちに、京都企業の環境技術や環境への取り組みを広く紹介することで、児童の「科学する心」や「ものづくりする心」を養い、環境問題への意識付けを行うとともに、地元企業への関心を深めることを目的として、環境学習事業を実施している。平成 14 年度より会員企業および京都市教育委員会の協力のもと実施し、これまで延べ 677 校、49,732 人が参加している。 平成 27 年度は、25 の企業・団体が「水の話」や「太陽光発電」など、それぞれの強みを活かした身近なものをテーマに設定し、小学校 3 年から 6 年生を対象にした合計 36 のプログラムにより各企業の担当者が小学校へ出向いて授業を行っている。 授業は「総合的な学習の時間」の一環として実施し、事前に企業の担当者と小学校の教諭が学習目標や授業内容をすりあわせ、各年次やクラスに応じたプログラムを作成している。座学と併せて実際に企業で使用している機械・器具等を使用してグループごとに実験を行い、児童が自ら体験することで思考力や探求心を育むとともに、適所に映像や質問、クイズを取り入れ興味・関心が一層高まるよう工夫している。また、実験を行う際には、企業の担当者が各グループへアドバイスをを行い、児童同士や企業の担当者、先生とのコミュニケーションを取るとともに、実際に環境問題やものづくり等に携わっている体験から、苦労した点、嬉しかった点などを伝えることで、働くことへの興味や仕事を身近に感じるきっかけになるように努めている。
	【水のお話】 株式会社島津製作所 身の回りの水環境を学習するとともに、水の汚れをパックテストや分光光度計を使って実験をおこない、水の大切さや生き物、人とのつながりを理解し、水を汚さないために自分達ができることを探る授業を行った。 写真は、グループごとに「工場」「田んぼ」「家庭」の水の汚れの違いを調べる実験を行っているところ。
	【太陽光発電と蓄電池の役割～太陽光から電気を作ろう】 株式会社GSユアサ クリーンエネルギー源としての太陽光発電について学習する授業。地球温暖化や太陽電池と電気が起きる仕組みについて学習するとともに、太陽電池で小型ファンを廻す実験や蓄電池と組み合わせた実験を行った。 写真は、太陽電池の傾き方・向きでどう変わるのかを探る実験の説明を行っているところ。

<審査委員からの評価コメント>

- 小学生に対して、水や太陽光発電などわかりやすいテーマで、環境技術を有する企業担当者が企業で使用している機材を使って、実験を行い、体験させることにより、環境への取り組みが社会に役立っていることや働く人の生の声を聞くことで働きがい理解でき、職業の理解や興味を持たせることができる。
- 「京都議定書」の採択の地である京都で、2002 年から、実際に環境問題やものづくりに関わっている企業の方の授業や実験を通して、初等教育の早い段階から、働くことの意義やものづくりに対する興味や関心を引き出し、将来のものづくり人材育成に注力している。

中小企業の部

企業・団体名	一般社団法人キャリア教育支援協会
プログラム名	未来クエスト（大学生編、社会人編） 分野（学部・学科）ガイダンス（主に高校 1・2 年生対象） 模擬授業（主に高校 2 年生対象） 学校別ガイダンス（主に高校 2・3 年生対象）
活動の内容 （概要）	経済状況の不安定さや職業・雇用形態の多様化といった時代の流れの中、高校生や大学生が卒業後、せっかく苦労して選択した入学・入社先をやめてしまうケースの増加、社会の求める人材とのミスマッチが大きな社会問題になっている。 一般社団法人キャリア教育支援協会では、①「なぜ学ぶか」を学ぶ、②将来を考えるきっかけ作り、③「自立できるチカラ」を身につける というコンセプトに基づき、高校生を対象に、社会人や大学生をゲスト講師に招き対話をする「未来クエスト」など、高校生達が自らの意志で考えたり相談したりして、悔いのない進路選択ができるような情報提供の場を設けている。 将来の職業を意識することで学生生活の過ごし方に「目的」を持ち、日々の生活を有意義にすることで、卒業後に進学・就職どちらを選ぶにせよ、次のステージに進む自分に期待を持てるように、「マナビとシゴトを結ぶプロジェクト」と銘打ったキャリア教育支援を展開している。
	「社会人クエスト」のひとコマ （2014 年 5 月 15 日、神戸常盤女子高等学校） 社会人として働く人をゲストに招き、学校の教職員以外に社会人・大人と接する機会の少ない高校生が社会人と接触・対話し、社会や仕事に関するリアルな話を聞く機会を設ける。 大学生を講演ゲストに招待する「大学生クエスト」も。大学生との会話を通じて、自己発見・共感・気づき・目標設定という一連の流れの中で、高校生活のモチベーションアップを狙う。
	「グローバル&キャリア教育」 （2015 年 6 月 4 日実施） 自分の国・地域のことを自分の言葉で話せるようになることが国際人への第一歩。この日は「地元・神戸の歴史や魅力、観光名所やグルメなど」「自分の好きなもの・興味のあること」を事前課題として考えてきてもらい、10 名のゲスト（韓国、中国、台湾、ベトナム、モンゴル、インドネシア、オランダ、ロシア、ブラジル、オーストラリアから来日して日本語を学ぶ方々）に話してもらった。英語を話せない方もおり、会話は日本語ながら、高校生にとってもゲストにとっても貴重な体験になったという声があった。

中小企業の部

企業・団体名	株式会社 Good Try JAPAN
プログラム名	中高生を対象にしたシリコンバレーでのキャリア教育プログラム 「世界で自分の将来を考える旅 in シリコンバレー」
活動の内容 (概要)	中学生・高校生の自己理解・自己管理能力と人間関係形成能力を育むことを目的とした宿泊型キャリア教育プログラム。中学生・高校生が抱える①やりたいことがわからない、②やりたいことはあるが、踏み出せないという課題を解決する方法として、最先端のテクノロジーが集まり、イノベーションが起これ続けるシリコンバレーに渡り、現地の企業や大学を訪問。様々な分野で活躍する日本人（約20名）からキャリア・生き方に関する話を聞くことを通じてシリコンバレーに根付く「失敗は挑戦の証だ」といった文化に触れ、勇気を持って挑戦する気持ちを育てるプログラムを実施している。 毎日2時間のリフレクションでは、自分が感じたことや考えたことを、出身や学年の異なる仲間と共有をし、同じ体験から異なる感想を持つ仲間達から多くの視点を学び、多様性を理解する。また、現地の高校生とチームを組んでミッションをクリアするワークショップを行ったり、スタンフォード大学を訪問し、大学生とコミュニケーションを取ったりすることで、英語が伝わる楽しさや伝わらない悔しさを体感。同時に、英語が拙くてもコミュニケーションを取ろうとする意思が何よりも大切であることを学ぶ。 事前学習では参加生徒と個々に面談を実施し、訪問場所や人の情報説明、抱えている不安などをヒアリングして、プログラムでの学習効果を高める工夫をしている。また、事後学習では帰国後の変化をプレゼンする場を設けている。 2015年度からは、日本国内での学校への出張授業（キャリア教育）の提供も開始している。
	（マウンテンビューの Shalala にて） 化学品メーカーのマネージャーとしても活躍するダブルキャリアを実践する上島氏 ラーメン「Shalala」を起業し、経営する上島平太氏から「世界の常識と日本の常識」の違いを教わる。
	仲間達と毎日行うリフレクション・ワークショップ ① 数多くのインプットから自分が感じたことや考えたことを言葉にする ② 自分の言葉で周囲に共有する ③ 仲間の意見を聞いて、更に自分の考えを深める

中小企業の部

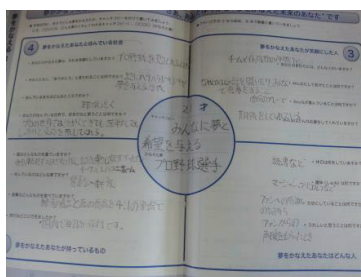
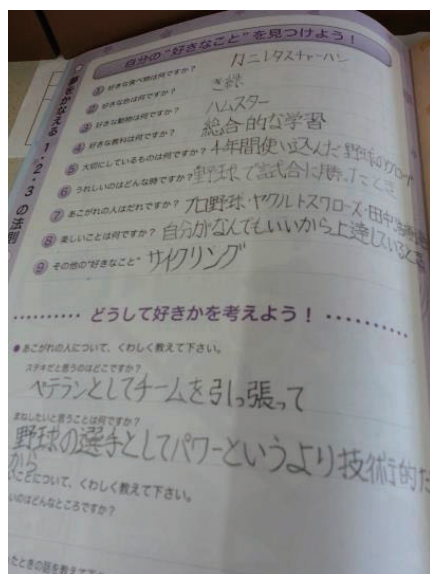
企業・団体名	こどもエネルギーサミット実行委員会
プログラム名	こどもエネルギーサミット
活動の内容 (概要)	主に小学生を対象に、再生可能エネルギーについての知識と理解を深め“未来エネルギーにまつわる発想力”を引き出すまでを目的とした教育プログラムである。「メガソーラー発電所見学」「クイズ大会(座学)」「ワークショップ(体験)」を段階的に実施した後、「発想の時間」の中で子どもたちの未来エネルギーについてのアイデアを引き出していく。 プログラムの進行においては、発電所開発に関わる事業者、技術者、また再生可能エネルギーの研究者など、各方面の大人から解説やメッセージを子どもたちに伝えることで、発想が現実になりえること、そして多くの人々の知恵と技術＝職業の上にそれが成り立っていることを、楽しみながら知ってもらえるように工夫している。 現在、本プログラムはSGET(スパークス・グリーンエナジー&テクノロジー株式会社)の太陽光発電を中心とした、再生可能エネルギー発電所開発・運用事業の展開にともないながら、日本各地の小学校等で開催している。企画実施にあたっては、プログラムに協力をしている複数組織が柔軟に協働できるように実行委員会の形をとっており、基本的な運営プレーンを中心に、各業種の得意分野を活かしながらプログラム内容をブラッシュアップしている。また、実施回によって社員をはじめとする協力参加者が入れ替わり、教育を通じた社会貢献の現場に出来るだけ多くの人々が触れられるようにしている。
	「社会見学の時間」の様子 実際にメガソーラー発電所の建造に関わった技術者が、工夫を凝らした説明をしている。
	「発想の時間」の様子 社員がファシリテーターとなり、子どもたちと対話を重ねながら、新しいアイデアについて考えをまとめていく。

中小企業の部

企業・団体名	NPO 法人スマイルスタイル
プログラム名	かぎかっこ PROJECT (取組…いしのまきカフェ「 」(かぎかっこ) / 仕事みち図鑑 / KAERU CAMP)
活動の内容 (概要)	社会に一步踏み出している高校生世代に対し、自分たちを育んだ地域とのつながりを持つ機会、生きがい・働きがいを考える機会、これから生きる上で対面する様々な課題を自分ごととして捉え、取り組む力が必要であるとの考えからスタートしたプロジェクト。高校生が、今自分に必要な力とは何かを考えることから始まり、自分自身が主体的に学ぶ機会をゼロからつくる取組を行っている。 ○取組 1：いしのまきカフェ「 」(かぎかっこ) 専門家や地域の人との協力、地元資源の活用のもと、ゼロからのカフェづくりを通して、リアルな社会体験を得るプロジェクト。商品開発、営業、空間・イベントづくり、情報発信などを行う。 ○取組 2：仕事みち図鑑 自己分析や事前学習を経た後、フィールドワーク中に会った人へインタビューを行い、思ってもみなかった「仕事」にまつわる話と出会う。発掘した人々の言葉は写真とともに「図鑑」にまとめ、展示発表会を開催する。 ○取組 3：KAERU CAMP 地域が抱える課題テーマをもとに、高校生がフィールドワークを通して情報収集し、解決プランを企画・発表する短期集中型キャンププログラム。 厳しい社会変容の中でも、たくましく創造的に生き抜く力を養成し、将来まちを担う人材となって社会へ巣立つための様々な取り組みを、高校生と一緒に生み出し、継続する仕組みを地元へ残すことを目指している。
	『いしのまきカフェ「 」』のメンバー写真 高校生が、それぞれの個性を活かし合いながら、活動を進める。例えば、壁面や照明などの設えは、空間やインテリアデザインに興味のあるメンバーが、カフェの制服は将来ファッションデザイナーを目指したいというメンバーが、専門的な知識を持つ地域の大人たちのアドバイスを受けながらゼロからつくり、社会体験をしていく。
	『仕事みち図鑑』で、まちなかで出会った人たちの図鑑カード 表面には写真、裏面にはインタビューの中で一番響いた言葉や印象的だった話を、各々でまとめている。突然に訪ね、勇気を持って話しかければ、大人たちは「仕事」や「働く」の話題から自然と、「生きる」につながる話を高校生たちに聞かせてくれる。インタビューを断られることもあるが、それも社会体験。彼ら自身の手で「発掘」していく。

中小企業の部

企業・団体名	一般社団法人ドリームマップ普及協会
プログラム名	主体的に生きる力を育む キャリア教育 ドリームマップ授業
活動の内容 (概要)	「ドリームマップ授業」は、公立の小中学校を中心に協会認定講師が実施するキャリア教育プログラム。全国6ヵ所の支部を中心に約100名の認定講師が活動に参加し、23県で授業が実現している。 原則1日6時間、1クラスに2名の講師が入り、ワークブックに沿って自己理解、将来の可視化（ドリームマップの作成）、発表、行動計画、振り返りと進行する。 ドリームマップで描く夢は好きなことや興味から将来は「こうなりたい」「こんなことがしてみたい」と、自分はどのように生きることが幸せなのかの探求であり、夢を描く際は自分の「もの」や「心」の満足だけではなく、他者への貢献や社会への影響の視点を持ち、児童・生徒が自分の存在意義や効力感に意識を向けることにつなげている。 また、1日の授業を通し、傾聴・承認のスキルを高め、違いを認め合う関係づくりを進める。夢に向かう行動計画は現在の勉強や練習の意味を自ら考え、必要な情報を得るアンテナとなる。 ドリームマップ授業は1日で終わるイベントではなく、今後の人生で主体的に目標を決め行動して行く考え方や態度を身に付けるプログラムとなっている。



ワークブックに沿って、段階的に夢について具体的に考えていく。夢は職業名だけではなく、「どんな〇〇」になりたいかとキャッチコピーをつけ具体的に表すことで、その児童・生徒の価値観を引き出していく。



ワークや作成時間は認定講師が個別に傾聴・承認を行いながらサポート。「せかさない・決めつけない・否定しない」という態度で接することで、安心・安全な場を作る。発表は、一人ずつスピーチシートを読み上げる。なぜその夢を叶えたいと思ったかを書くことで、子ども自身の価値観が表れ、どんな大人になりたいか、どう生きていきたいかを考えるきっかけとしている。

中小企業の部

企業・団体名	特定非営利活動法人 natural science
プログラム名	「科学・技術の地産地消モデル」構築による、持続可能な学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティの形成～知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて～
活動の内容 (概要)	社会の成熟化に伴う細分化・複雑化により、個々は専門家に任せ、表面だけを利用するブラックボックス化が進み、人々は便利さと引換えに、科学や技術の“プロセス”を五感で感じられる機会を失ってきた。しかしながら、科学の“結果”のみを一方的に享受するだけの受身の姿勢では、科学離れ問題や科学リテラシー不足等、科学技術立国日本の根底を揺るがす社会的リスクは回避できない。 このような考えから、古くより「学都」と呼ばれ、大学・研究機関・高専、民間企業や行政・教育機関等が密集し、研究者や技術者等による知的創造活動と市民生活が、すぐ隣り合わせで存在する地域特性を活かし、科学の“プロセス”を子どもから大人まで五感で体験できる科学イベント『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ』を2007年から毎年開催。既存の枠を超えた多様な主体（約150団体）と連携することにより、現在は1日で出展者も含めて約1万人規模のイベントとなっている。 さらに、地域の多様な知的資源を教育的価値として地域に還元することを目的に、「科学・技術の地産地消」と銘打ちサイエンスコミュニティを立ち上げた。その第一段階として各主体による既存活動の効果最大化を図ることを目的に、地域ネットワークを形成。第二段階として、このネットワークを活用し、大学生が地域資源を活用して科学講座を開発し、次世代を担う小中高大学生に提供することを通じて、科学技術立国日本の未来を担う人材の育成を行っている。
	『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』出展プログラムの一例として、企業の現役エンジニアと一緒に、パソコンを分解していくワークショップの様子。 日頃から何気なく使っている機器を分解し部品に分けることによって、機器のしくみや工具の使い方を学ぶ。 幼少期に体験した電化製品等の分解が科学への好奇心の原点と語る研究者や技術者は多いが、昨今はその機会が減っていることに危機感を持つ人も少なくない。
	互いに自分の賞をつくって表彰し合う取り組み「サイエンスデイ AWARD」の様子。そもそも科学の価値は一つのものさしでははかりきれない。そこで科学の多面性を複眼的な視点から可視化できるよう、サイエンスデイ AWARD は個人・団体を問わず誰もが自分の賞を創設できる点に最大の特徴がある。 今年度は合計60AWARDが創設され、大学や研究機関、企業や官公庁の専門家のみならず、写真のように小中高生も賞を創設しており、緊張しながらもプレゼンターを見事務めた。

中小企業の部

企業・団体名	一般社団法人日本ゆめ教育協会
プログラム名	ワクワクゆめ教室～みんなの“ドリームツリー”をつくろう！～
活動の内容 (概要)	小学校4年生から高校3年生を対象に、ワークショップ形式で将来の夢を明確にし、全員が発表する授業を実施。将来の夢を明確にすることで、キャリア教育のスタートの授業として活用されている。授業は、「承認の雰囲気作り」→「夢のヒントとなるキーワードの拡散」→「集約」→「発表」という流れで構成されている。 ① 「GOOD！CLAP！SMILE！」 ～いいねと拍手と笑顔でお互いに承認し合う雰囲気を作る。 ② 「好きなことゲーム」 ～自分の好きなことや、やりたいことなどを2分間でいくつ書けたかを競うタイムアタック。書き出すことで、脳内の情報を《見える化》する。 ③ 「ゆめ探検マップ」 ～《見える化》した自分の情報をキーワードに結びつけながら広げる。さらにこのマップをもとにペアで質問しあうことでさらに広げ深めていく。 ④ 「夢まとめワーク」 ～作った「ゆめ探検マップ」をヒントに、自分が一番やりたいことを「現時点の夢」として掲げる。 ⑤ 「みんなのドリームツリー」＆夢発表 ～果実の形をしたカードに、自分の夢を記入し、全員の前で自分の夢を発表し、“夢が実る”と願いをこめ、「ツリー」に貼り付けていく。クラス全員の夢を共有することで、夢を応援し合う関係性を築く。
	協会認定講師がファシリテーションしながら、“いいね”と“拍手”と“笑顔”で教室の雰囲気を承認と応援し合う雰囲気に変化させて授業がスタートする。
	「ゆめ探検マップ」を使って自分の頭の中にある情報をキーワードと結びつけながら広げていく。さらに、このマップをもとに、ペアで質問しあうことでさらに広げ深めていく。

中小企業の部

企業・団体名	富士商工会議所青年部、富士市立高等学校	
プログラム名	サマーインターンシップ2015 ～未来へ向けて「生きる力」を育む～ 『富士山のふもとの企業の魅力をキャッチコピーに』	
活動の内容 (概要)	「サマーインターンシップ2015」は、生徒一人ひとりが働くことを通して社会を生き抜く力、すなわち【生きる力】を育むことを目的として、富士商工会議所青年部と富士市立高等学校ビジネス探究科が連携して実施。プログラムは、8月中旬の5日間で集中的に実施し、3年生の生徒が3名1組となり、指定された担当企業へ2日間訪問する。 事前学習として、地元企業の社長のキャリア講話、取材方法やキャッチコピー作成方法、プレゼンテーションの講座等、意欲喚起とスキル習得の学習を行う。続く2日間の研修では、各企業が、朝礼、職業講話、取材、現場見学、職業体験等を盛り込んだ独自のプログラムを提供。生徒たちは、企業理念や社会への貢献意識等を学び、実際に働く人の思いを取材し、その思いを感じながら業務を体験することで、受け入れ企業の魅力を体感する。その後、学校に戻りチームで「富士山のふもとの企業の魅力」をキャッチコピーに落とし込み、プレゼンテーションにまとめ、最終の発表会で報告する。 一連のプログラムを通じて、生徒たちは実際の現場での活動の目的が明確になり、積極的に取材・体験することにつながっている。また、実際の社会で人と力を合せ、課題に向き合い、一つ一つクリアすることで、自信や何事にも挑戦していくチャレンジ精神が育まれ、「働くこと」の意味への理解が深まるキャリア教育プログラムとなっている。	
	発表会終了後の受入企業と参加高校生との記念撮影	
	プレゼンテーションの様子	

中小企業の部

企業・団体名	一般社団法人 Future Skills Project 研究会
プログラム名	未来を創る「主体的な学び」を実践する ～Future Skills Project 研究会 4 年間の挑戦～
活動の内容 (概要)	この講座は大学1年生前期において全14コマで展開。学生が5～7人でチームを組み、前半と後半で2つの企業の課題に取り組む。1つの企業から提示される課題に5コマで取り組み、課題解決策をチーム毎に企業にプレゼンテーションする。2つの企業の組み合わせは、前半がB to C企業、後半はB to B企業となっており、複数企業の事例に触れることで、企業によって価値観が異なること、社会には自分の知らない企業もあり、それぞれに役割・位置づけが異なること等を知るきっかけとしている。 また、1年生前期に課題解決に取り組む経験をすることによって、今の自分に何が足りないのか「気づき」をもたらし、大学での学びの重要性を理解し、授業への意欲が高まることを狙いとしている。 この狙いを達成するために重視するのが「失敗」経験である。講座では、知識も技能も教えないままに企業が抱えているリアルな課題に取り組むため、ほとんどのチームが十分な成果物を完成できず、企業からの手加減のない厳しい指摘を受け、大半の学生は落ち込む。一般のPBL型授業は、ここで終わるが、この講座はここからが本番である。すぐに後半の企業課題が提示されると、前半企業の取り組み活動の反省を踏まえ、前半企業の活動よりも深く議論ができ、チーム活動にも工夫が現れる。1つの講座の中で、失敗→内省→概念化→実践という学びのサイクルを回す仕組みになっている。
	【チームディスカッション】 学生が5～7人でチームを組み、前半と後半で2つの企業から出される課題に取り組む。当然、授業中に議論や解決策の検討が完結することはほぼなく、学生は授業時間外にもチームで集まり議論を重ねる。 写真は、事前に各人が調べたことを持ち寄り議論が進行していく様子。
	【企業への提案】 企業が参加するのは、前半・後半それぞれのパートの「企業からの課題提示」「中間発表」「プレゼンテーションと講評」の3回。中間発表では、学生が発表する議論の進捗や課題解決の方向性に対してフィードバック。現場での課題解決の考え方に基づく具体的なアドバイスを。最後のプレゼンテーションと講評では、企業と学生それぞれの評価を行い、学生と企業の視点の違いが体感できるよう工夫している。

中小企業の部

企業・団体名	冒険王 株式会社（求人情報誌 ジェイウォーム）
プログラム名	高校生「働くヒト」写真コンテスト
活動の内容 （概要）	就職、進学を目前に控える、沖縄県内の高校生（定時制、通信制、高専、専修学校高等課程含む）を対象とした写真コンテスト。写真撮影を通して、様々な仕事に触れ、そこで働く人と言葉を交わし、その仕事の社会での役割・魅力を知ってもらうことで、「働くこと」について再発見を促すことを目的としている。 応募期間は各高校の夏休み期間を含む6月中旬～9月下旬までとし、応募作品を審査員による審査のうえ、上位入賞者を決定。上位入賞作品は「求人情報誌ジェイウォーム」の表紙に掲載する。また、全応募作品は県内の大型ショッピングセンターにて展示会を行う。 企業・店舗への撮影交渉からはじまり、誌面や展示会での作品掲載の了承など、全て生徒自身で行うことで、コミュニケーション能力の向上にも繋がっている。また、応募の際には、作品説明としてコメント（400文字内）を添付することを必須とし、作品を通して「働くこと」についてどう感じたのかを文字にすることで、「働くこと」について改めて考えられるように工夫している。



第5回(2015年)時の案内用ポスター
(サイズ：A4～A2)

県内各高校へ配布のほか、告知用として県内各企業・店舗(高校生が立寄りやすい高校近隣の店舗等)へも配布。

「求人情報誌 ジェイウォーム」でも応募期間中(6月19日～7月24日)告知を掲載し、多くの人の目に留まるようにした。



表彰式の模様（2014年）

昨年はグランプリ1名、準グランプリ1名、優秀賞2名、特別賞1名、ジェイウォーム賞1名、佳作2名、計8作品が選ばれた。

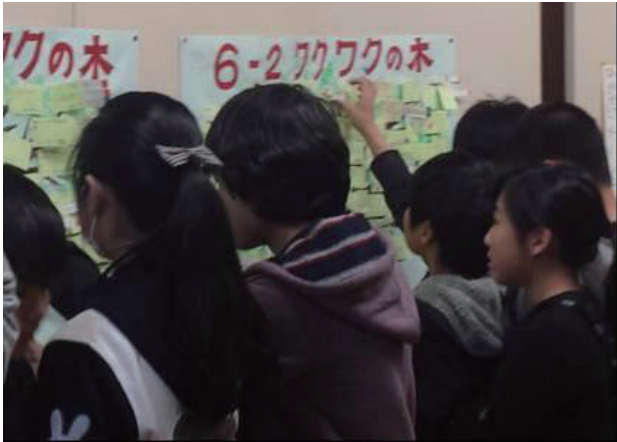
中小企業の部

企業・団体名	松山商工会議所青年部
プログラム名	未来の人材育成による地域活性プログラム ～愛媛大学 YEG 特別講座～
活動の内容 (概要)	将来の自分に欲がないと言われる学生に対し、働くことへの意識革命を起こしてほしい、起業への関心を持ってほしいという思いから、実社会の中で挑戦し努力してきた大人の姿を見せることで、将来の夢やキャリアについて真剣に考える場を提供することを目的として、本事業を立ち上げた。2013 年は愛媛大学の協力のもと、同大学内で外部講師を招き講演会を実施。周囲の大学・短大・専門学校生など100名が受講した。2014年はさらに同大学との連携を深め、講演会に加え同大学の単位認定授業を実施している。 授業では同会の会員が講師となり、講師1人1人が「なぜ働くのか」や「仕事を通じての自己実現」などのテーマを定め、講義・クロストーク・発表・レポートの4部構成で授業を進める。講師が一方向的に話すだけでなく、受講生同士の意見交換や意見集約、レポート作成などを通し、理解向上に努めている。また、レポート内で講師に寄せられた質問事項には全て回答するなど、受講生と講師との関係作りに努めた結果、授業時間外でも学生から相談が寄せられたり、同会が行っている別の地域事業への参加希望者が出るなど、コミュニケーションの継続とそれによる地域社会との関わりが生まれている。2015年には受講生の主体性を引き出すよう、さらに内容を充実させた講義を実施している。
 上段 講師（松山商工会議所青年部会員） による講義 下段 クロストークおよび学生からの質問 や意見発表	
 講演会および講義案内資料	

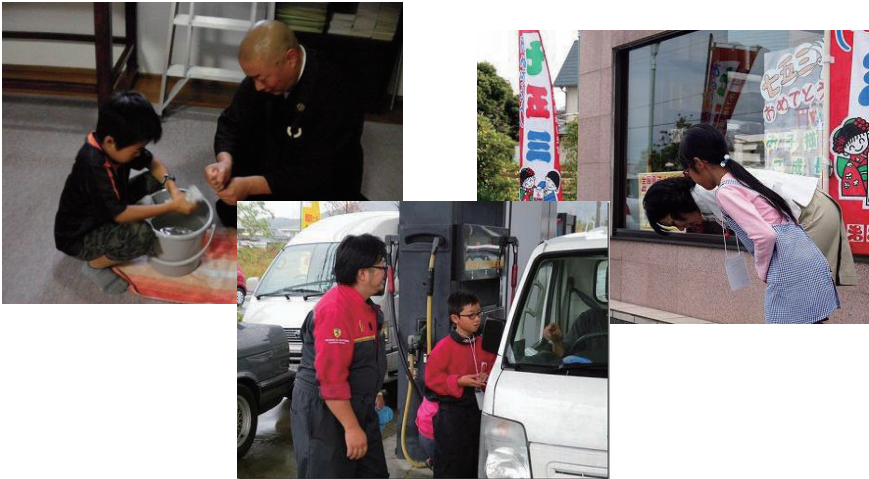
中小企業の部

企業・団体名	夢育塾（むいくじゅく）
プログラム名	「夢育塾セミナー」 （出前型インターンシップ、放課後ひろば、しゃべりば、就職指導、キャリア講演）
活動の内容 （概要）	子ども・若者が家族や教員以外の大人と接する機会が激減している昨今の環境下で、若者の「夢」をサポートするという目的のもと、高校生を中心に中学生から大学生までを対象として、学校教育内におけるキャリア教育を支援。 様々な人生経験の中で、夢を実現している起業家や創業者、社会人の中から、地域の若者に役に立ちたい意思を持った人材を「夢育塾アドバイザー」として組織化し、「職業観」や「人生観」「役割」をそれぞれの経験をもとに外部の立場として、ボランティアで支援する活動を行っている。 プログラムの骨子は「職業理解」「自己啓発」「就職支援」「進学支援」となっており、それぞれ有効な情報発信が可能な講師を数人ずつ準備。講座では、講師が一方向的に話をしていく「講話型」ではなく、車座を取りながら子供たちに質問を投げかけ答えをもらい、更に展開を図る対話式のみを採用している。
	出前型インターンシップ
	「放課後ひろば」の光景

中小企業の部

企業・団体名	リエゾン・デートル
プログラム名	「世界ビトになろう！」グローバルな視点でのキャリア教育出前授業
活動の内容 (概要)	働く環境の国際化が急速に進み、就学中の子供たちが働く時には海外と関わりのある仕事は必須となってきている。「働く」ことを意識する時に、その対象となるフィールドを海外へ広げる、または日本に居ながらにして海外と結びつけて考えていくことが今日のキャリア教育では求められている。このような考えから、働くことは「自らの能力を活かして社会に貢献すること」であり、能力を活かせれば「仕事はやりがいがある」ことを伝え、世界に広がる様々な職業から個性を生かした職業を選択可能であるという職業観の醸成を目指し、キャリア教育支援に取り組んでいる。 「世界ビトになろう！」出前授業は、小学校高学年から大学生までを対象に、発達段階と各学校のキャリア教育で目指す目的に合わせた個別のプログラムを企画し、グローバルな視点でのキャリア教育を提供している。リエゾン・デートルの代表は、キャリア教育の傍らで行っている中小企業海外支援事業で1年間の約1/5は海外諸国に滞在しており、その環境から入手した海外で働く日本人の最新情報を授業で紹介し、「今働く現場では何が起きているか」を分かり易く伝え、「今から身に付けておくべき能力」を学ぶ授業内容となっている。 出前授業の提供は3年目を迎えており常に学校や生徒からの反応を分析し授業内容の継続的改善を図っている。 リエゾン・デートルでは「キャリア教育」活動と「中小企業海外支援」事業が相互に補完し合う形で事業展開をしている。
	東京都中野区立江原小学校の授業風景 「今自分が何に関心があるか(ワクワクしているか)」「将来になりたい職業」を紙に記入して模造紙に描かれた「ワクワクの木」貼付しているところ。 お互いに記入した内容を見て意見を交わす。 10年後にワクワクの木を見なおす同窓会を企画している。
	福岡県立輝翔館中等教育学校の授業風景。 授業開始時に「働く事とは？」の問いを、生徒にランダムに回答してもらっている様子。恥ずかしがりながらも自分の意見を述べてくれた。

優秀賞

企業・団体名	キャリア教育研究所ドリームゲート
プログラム名	子どもまちゼミ「お仕事体験わくわくワーク」
活動の内容 (概要)	2013 年に磐田市協働のまちづくり事業としてスタートした小学生高学年のための仕事体験イベント。コーディネーターが行政（商工観光課）とともに受け入れ事業者を探し、児童の職業意識を刺激する事業として 16 か所で開始した。翌年には 33 か所、本年度は 23 か所での開催と継続している。 仕事体験だけでなく、その企業店舗の魅力を子どもが取材し PR する「ポスター制作」を「振り返り授業」として行うことにより、子どもたちにコミュニケーション能力やチームで働く力、プレゼンテーション能力などが身に付き、全体を通してやる気や能力を伸ばすことに結びつけている。キャリア教育コーディネーターが中心となり「振り返り」の重要性や「憧れの大人の顔の見える」チラシ作りなど、子どものやる気を引き出し、力を付ける工夫をしている。 参加した事業者からは「自社の魅力の発見や自己の振り返り、売り上げアップにつながった」という声があり、保護者からは子どもの変化に驚き、活動に感謝をされている。地域の小学生と事業者を結び、保護者含め win-win-win となっている。
	
	

（左上）お寺での掃除の様子
雑巾の絞り方を知らない子どもを指導する住職。

（中央）ガソリンスタンドでは、衣装も用意され、実際のお客様への給油や会計、おしぼりサービスなどを体験した。

（右上）地元のケーキや和菓子を扱うお店では、お客様をお出迎えする挨拶の仕方を 3 種類教わった。

（左上）取材した内容、魅力をポスターにするために子ども会議で話し合う。おおよそのポスター下書きまでを目安として、「見守り隊」の大人（団体ボランティア）が促す。

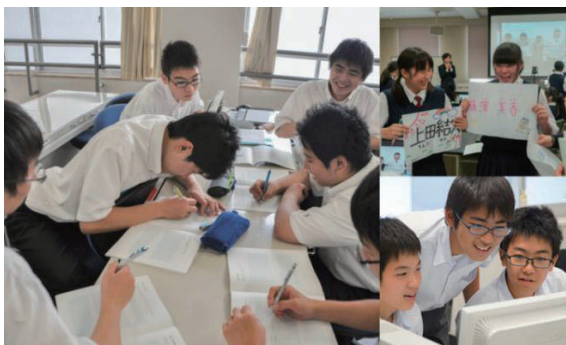
（中央）翌週、各所で体験した全員が集まり、撮影した写真や取材したメモ、ポスターの下書きを元に、チームで協力しポスターを完成させる。

（右上）ポスターの内容を時間内にチームでプレゼンする。

<審査委員からの評価コメント>

- 行政や教育委員会、商工会議所等と連携し、多岐に渡る職場体験先を確保し、子どもの希望に沿った分野での職場体験を実施している。体験終了後に発表会を実施することで、主体的に体験学習に取り組むことができ、別の職場での体験学習による学びを共有することができる点が評価できる。
- 「体験すること」が自己目的化する懸念のある「お仕事体験」の質の向上を図り、キャリア教育の一環として位置付けるためのコーディネートがなされている。

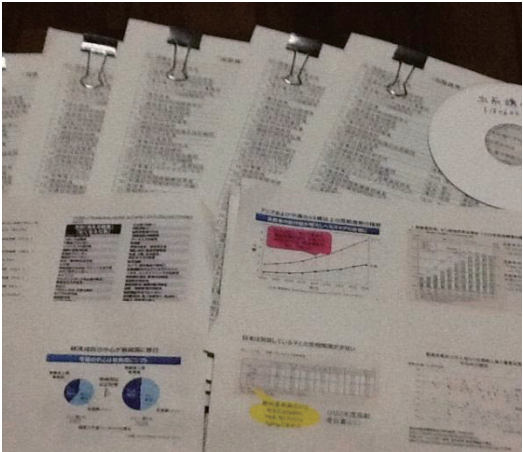
奨励賞

企業・団体名	株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート
プログラム名	トゥワイス・プラン『企業インターンワーク』
活動の内容 (概要)	「企業インターンワーク」は、これまでの日本の経済成長を支えてきた多くの企業が、次世代を担う若者たちの「生きる力」を育むことに貢献できる、継続的かつ実質的な教育プログラム。「キャリア教育」、「アクティブラーニング」、「課題解決型学習」のできる実践的なプログラムとして、全国の中学・高校の情報科 や総合学習、英語、公民などの通常授業で活用されている。 生徒たちは教室にしながら、実在の企業のインターンとして課題に取り組む。授業は12回で構成され、生徒たちはチームづくり、企業選び、担当者との面談、企業から出される課題に対するプレスト、リサーチ、プレゼンテーションを通して、実社会で役に立つ力を身につけていく。企業から出される課題は「指令」と呼ばれ、企業が本気で注力していることや、問題として解決したいことに生徒たちが挑戦する。 本物の企業とのやりとりを通して、生徒たちの「職業理解」「コミュニケーション力」「チームワーク力」「問題発見・解決力」「論理的思考力」「情報収集・活用力」「プレゼンテーション力」を育むことにつなげている。 実際に授業を進行するのは先生であり、実施にあたっては、学校ごとに担当のコーディネーターがつき、取組開始前の学校・企業へのオリエンテーションから、取組中の授業サポート、終了後の振り返りの実施など、先生が無理なく授業の運営ができるように年間をとおしてサポートしている。
	インターン先から出される「指令」を達成するために、チームで協力してアイデアを出し合う。アンケートなどのフィールドワークに取り組んだり、繰り返し会社や取り扱っている商品をリサーチしたりと、それぞれのやり方で回答を組み立てていく。
	生徒たちは最後の最後まで話し合いながら磨きをかけ、提案を仕上げていく。プレゼンテーションの前には、本番を想定したりハルサルを行い、回答をブラッシュアップ。本格指令に対するプレゼンテーションは、クラス全員で審査をして“グランプリ”を決める。

<審査委員からの評価コメント>

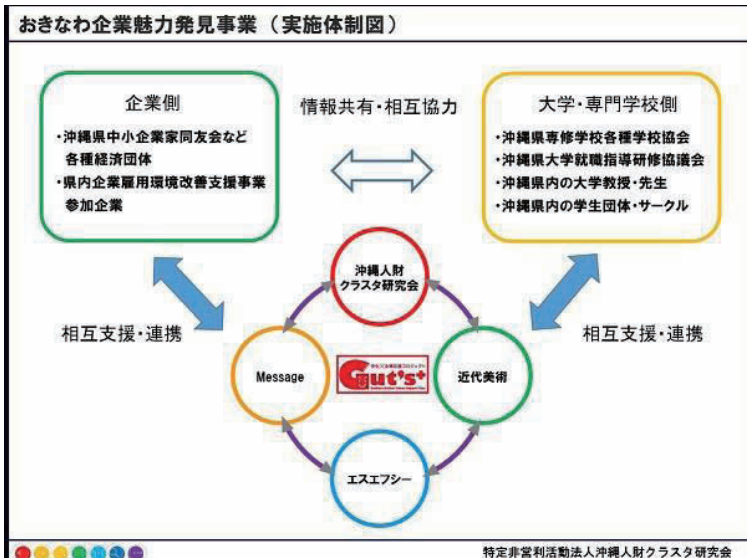
- 教育現場と企業を上手くコーディネートしており、日本を代表する企業の課題解決を体験できるのは、生徒にとって貴重な機会である。中学・高校でも実施しているのは先進的である。
- 実際の企業から指令（課題）を発し、生徒学生に対して、リアルに企業が直面する課題に対しても目的からゴールまでのプロセスを示して取り組ませることは、企業の役割や社員の仕事を理解させるとともに社会人基礎能力の向上を図る方法としてよい。
- 生徒や学生の目に留まりやすい企業からの課題提示等、生徒の意欲を高揚させる工夫がなされている。課題が深いことで、単純な「職場体験」「職業調べ」ではなく、より総合的に経済や流通、消費等、社会や企業を学ぶ質の高い活動となっている。

コーディネーターの部

企業・団体名	特定非営利活動法人 WEBREIGO (ウェブレイゴ)
プログラム名	国際標準オリンピック、世界に羽ばたくキャリア教育
活動の内容 (概要)	今、何が社会から必要とされているか(トレンド)を模索し、中学生や高校生のうちにしかできない学習内容を開始するべく、「やればできる、夢を形に」をテーマに社会のニーズを先取りするキャリア教育を支援。グローバル化の急速な進展のもと規格(ISO)標準化の必要性が高まる中で、国及び社会が必要としている、標準・規格(ISO)教育を中学・高校生に行い、日本で初めて、国際標準オリンピックに参加できる生徒の育成を産官学連携で行った。 産学官による連携、プロジェクト・ニーズに合わせた参集・散会方式を採用することで、各分野の専門家からなる少人数の精鋭チームによる支援体制を結成し、規格についての日本国内の情報収集と専門的知識の構築や、参加に必要な知識を養うための教育プログラムの立案などを行った。 プロジェクトの中で、生徒がアクションのできる場面をつくる、役割を持たせるなどし、生徒のリーダーシップ・主体性を尊重しながら指導を行い、結果として、金メダルを獲得するという評価を得ることができた。
	産学官連携において生徒を指導し、日本代表チーム(男子3名)を国際規格オリンピックに選出、高校生チームが金メダルを獲得した。
	生徒に指導するために規格における国内の膨大な先端情報をまとめたもの。 ユニバーサルデザイン及びサイエンスカフェで使用したロボット最先端技術情報等。

コーディネーターの部

企業・団体名	特定非営利活動法人沖縄人財クラスタ研究会
プログラム名	おきなわ企業魅力発見事業「Guts+」（インターンシッププログラム） （平成 23～25 年度）中小企業魅力発見事業「Guts」 （平成 26 年度～）おきなわ企業魅力発見事業「Guts+」
活動の内容 （概要）	沖縄県内の大学1～3年生、短期大学・専門学校1年生、高等専門学校3～4年生に対し、県内中小企業における効果的なインターンシップを実施することで、中小企業への就職を視野に入れた幅広い職業観を育成するとともに、社会人基礎力およびキャリア自律に関する能力を醸成し、雇用のミスマッチの解消および若年者雇用情勢の改善を図っている。また、県内企業に対して、インターンシップの活用を促し、大学生等のインターンシップを新たに受け入れる企業を開拓している。 2週間のインターンシッププログラムは事前研修6日間と企業実習3日間×2社で構成。インターンシップ生の募集は公募で行われ、県内の様々な大学等から、年間200名の学生が参加している（理系・文系など専攻を横断して参加）。 事前研修では、1日3コマ×6日間の座学（職業観・リーダーシップなど）を行い、社会人基礎力や自己効力感の強化を狙った体験型ワーク、業種・業界・役職の異なる社会人による講義（職業観・人生観中心）を設け、「職業に対する視野の拡大」「社会で評価される人材の共通点の理解」「社会とはどういうものか？の把握」が促進されるようにプログラムを構築している。 企業実習では、1社目は興味のある業種・業界、2社目は興味がない業種・業界を体験することで、職業選択の拡大や「興味がないと思っていた仕事でも全力で取り組めば、興味が湧いてくる」ということを実感できるようにしている。 企業に対しては、自社の活性化やスタッフの人材育成の機会として捉えられるようにコンサルティングを行うとともに、平成 26 年度からは、参加企業と学生そして、大学・専門学校関係者が集う「GutsCafe」（インターンシップの報告会&体験）を実施し、プログラムの改善・改訂について協議をする場を設け、産学の協働体制づくりに取り組んでいる。



<運営事務局>

沖縄人財クラスタ研究会

<運営共同体>

Es Es Es エスエスエス、近代美術、Message

<企業側>

沖縄県中小企業家同友会など各種経済団体 ほか

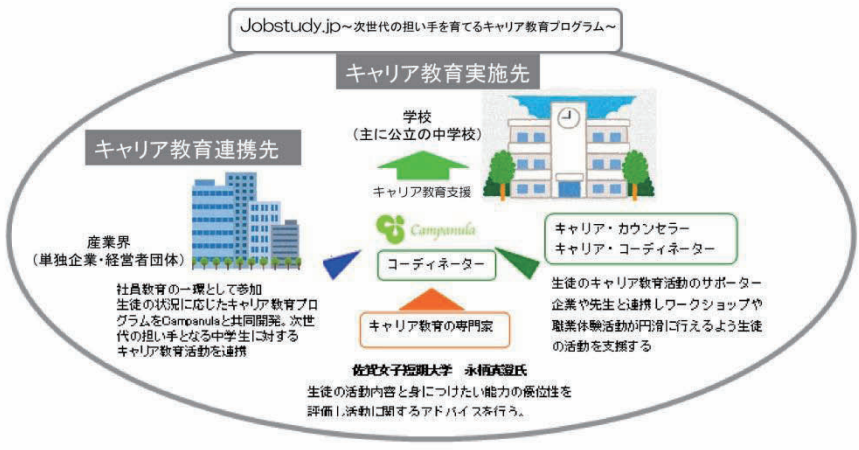
<大学・専門学校側>

沖縄県専修学校各種協会、沖縄県大学就職指導研究協議会



平成 28 年春期の学生用募 募集チラシ
事前研修の雰囲気が見えるようにしてある。

コーディネーターの部

企業・団体名	株式会社 Campanula（カンパニユラ）
プログラム名	Jobstudy.jp ～地域企業と連携した体験型キャリア教育プログラム～
活動の内容 （概要）	『jobstudy.jp』は、地域企業の社員が小中学校での出前型職業体験に協力することで、社員育成とキャリア教育を同時に行う体験型キャリア教育支援プログラム。 児童・生徒は、事前学習から職業体験学習、振り返り学習まで一貫して「仕事の特性と自分の特徴の共通点を探す」「自分で考え行動する」の2点を「活動の目当て」としている。この目当てに到達できるよう、参加企業の社員は学校で指導を行う前に18時間程度の事前研修を受講し、コーディネーターと共同で教育プログラムを開発する（このプロセスが社員にとってもキャリア教育となっている）。 また、職業体験当日、生徒は体験内容が記録できる専用のノートを持ちまわり、企業が説明する「仕事の社会的役割、仕事の必要性、その仕事をするのに必要なこと（その仕事に就くために今の自分が勉強しておくべきこと）」と体験の感想をノートに記録。後日、先生方が実施する振り返り学習で活用する。 児童・生徒には職業体験の事前・事後にアンケートを実施し、基礎的・汎用的能力の変化に関する成果指標を測定し、結果を教師へフィードバックする。職業体験学習を通して、生徒自ら考え行動し自分の特徴が発見できる、地域連携型キャリア教育をコーディネートしている。
 Jobstudy.jp～次世代の担い手を育てるキャリア教育プログラム～ キャリア教育実施先 学校（主に公立の中学校） キャリア教育連携先 産業界（単独企業・経営者団体） Campanula コーディネーター キャリア教育の専門家 佐賀女子短期大学 永柄実恵氏 生徒の活動内容と身につけたい能力の優位性を評価し、活動に関するアドバイスをを行う。	【支援・連携体制】 児童・生徒が自己の特性を自主的に体験できるキャリア教育プログラムを企業と共同開発し、学校の総合的な学習の時間に併せ、学校内で職業体験を実施している。 キャリア教育プログラムを共同開発するのは主に地域の中小企業。述べ178社の地域企業と、キャリア・カウンセラーなど専門知識を有している方々と連携している。
	【学習ツール】 学校での学習ツールは全て参加企業が日常的に活用している仕事の道具。実際の仕事の道具を使って、企業の社員から仕事の仕方を学ぶ。企業の説明や体験の感想は専用の「Jobstudy.jpノート」に記録。これにより児童・生徒は自己の特徴を把握できるキャリアノートとしても活用できる。 先生方はその後のキャリア教育活動でも引き続き活用できる。

コーディネーターの部

企業・団体名	福岡女学院大学(キャリア開発教育センター)
プログラム名	大学職員が企業と創る課外課題解決型学習会 ー私たちの「みらい」プロジェクトー/開かれた PBL への挑戦
活動の内容 (概要)	大学職員のコーディネートによる課外での「場づくり」活動。情報化社会で長所として SNS 等で横のつながりが強く、短所としてリアルな経験の不足から、知らない人(縦、年上)や経験ないことへの抵抗感が強い学生たちに、学部学科や学年、出身地域が異なるチームによる PBL を通じ、知識を知恵へと変えて社会人基礎力を身につけさせ、「リーダーシップ」意識を高めることを目標としている。 内容やテーマは年により異なるが、4 ヶ月程度で実施するため、社会で必要な力のうち、特に課題基礎力の向上を意識している。2015 年度は、首都圏 2 大学と連携して、働くことへの覚悟をもたせるため、「自己理解」と「営業」について考えさせ、リコージャパン株式会社九州営業本部の営業担当者が実際に抱える課題を、参加学生 12 名が 3 名×4 チームに分かれ「発見・分析・提案」を行った。プレゼンテーションだけでなく、課題解決のためのクリアファイルデザインの提案も行わせることで「クリエイティブ力」の向上も図った。 授業はチームビルディング、自己理解、ライフ・キャリアプラン、アンケート設計、インタビュー実施、プレゼンテーションを個人・ペア・チームワークで行い、発表、フィードバック、振り返りという内容で構成しており、課外活動ならではの課題、チーム分けやスケジュール調整等への対応力も求めている。社会人からのフィードバック、シートや模造紙を使った自己理解にも時間をかけている。

	【支援・連携体制】 全体をコーディネートする本学を中心とした複数の支援企業・大学という関係性、複数の企業人・大学生・大学教員・大学職員という関係性から、プレイヤーが増えることで、新たな他者との接点が増え、モチベーション向上、多様性確保、透明性確保へとつながっている。 また、それぞれが与え、与えられる立場を経験できるように連携体制をとっていることから、企業側は CSR として行いやすく、互いの支援はもちろん、社内や学内的な理解や支援も得られやすい。
--	--

	【教材・ツール、手法】 授業支援企業と連携して、オリジナルシートを使って授業を進めた。①自分自身を知る、②営業を知る、③分析・提案方法を行う、④クリエイティブ力を付ける、⑤リーダーシップを身に付けるという学習目標を達成するため、A.「思考補助」、B.「体験による学習効果の促進」という観点で、授業設計及び教材、手法を選択している。 □教材 A.例: 自分の体験を列挙、「要は」を考える事により自己を知る。B.例: 「何故」を禁止したインタビュー練習、質問を作る事の難しさを体験。 □手法 A.例: 自身の気持ちを「漢字 1 文字」に表す、「自分の取扱説明書」を作る事により、なぜそのように考えたかを内省し、自分自身を客観的に捉える。B.例: 中間発表会の開催と直後の振り返りの実施。
--	---



平成27年7月1日

第6回「キャリア教育アワード」募集要項

1. キャリア教育アワードの趣旨

- 新興国の台頭など企業の競争条件の激化に伴い、若者に求められる職務遂行能力が高度化していく傾向にある中、職業人としての資質や能力の向上、「働くこと」への関心・意欲の高揚を通じた学習意欲の向上などを目的とした「キャリア教育」を、子供・若者たちに対し早期から行うことの重要性が高まっています。
- 学校教育においては、基礎的な知識の定着やスキルの習得だけでなく、学習内容と実社会とを関連づけ、自己の将来について考える「キャリア教育」が推進されていますが、実施にあたっては、企業・地域の協力が不可欠です。なぜなら、企業・地域の人々が「本物の社会」「本物のシゴト」を教えることが、子供たちの興味・関心を惹きつけ、「働くこと」に対する価値観の醸成、学習意欲向上などにつながっていくからです。
- 近年では、次世代を担う若者育成のため、企業や地域社会が積極的に教育支援活動を行う事例が増加してきていますが、これらの活動は、企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）としての貢献活動にとどまらず、企業側にも様々な効果をもたらしています。実際に取り組んだ企業等からは、自社のブランド価値の浸透や、若者向けの製品やサービスの品質向上といった直接的なメリットもさることながら、活動に参加した社員が自己の仕事の内容ややりがいをお子に伝えることを通して、自らの仕事の価値を再認識するという、社員自身の人材育成にも効果があるといった効果や、全社的に取り組むことで企業内のコミュニケーションが活発化するといった効果が報告されています。
- これからの社会を支える子ども・若者に対する社会的投資としての教育への参画活動をさらに促進する観点から、企業等における教育支援活動の先進的な取組を表彰し、その成果を広く社会で共有することを目的として、昨年度に引き続き第6回「キャリア教育アワード」を開催します。是非御応募ください。

◆キャリア教育とは◆

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育である。

（平成23年1月中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」）

2. キャリア教育アワードの概要

キャリア教育アワードは、企業や団体による教育支援の取組を奨励・普及するため2010年度に創設された表彰制度です。

第6回キャリア教育アワードは、下記要領に従い実施いたします。

(1) 応募期間

2015年7月1日（水）～2015年9月30日（水）（必着）

(2) 応募対象

小学校から大学・大学院段階の子ども・若者を対象としてキャリア教育に取り組む企業・経済団体等及び専門的な知識、経験に基づいたキャリア教育プログラムやマッチングサービス等を提供するコーディネート機関とする。

- ※ 学校教育に対する支援活動に限らず、放課後や休日を利用した学校外における教育支援活動も含みます。
- ※ 職場体験・インターンシップ受け入れを行っている企業・団体も積極的に募集します。
- ※ キャリア教育の実践例としては、「職場体験活動」や「職業人による講話」などが広く知られています。しかし、例えば、学校における国語・算数・数学・英語などの教科教育や、環境教育・食育・金融教育・人権教育などに代表される個別テーマ性の高い教育活動についても、それらを通して課題解決能力、キャリアプランニング能力などの社会的・職業的自立に向けた力を育成するための意図的な働きかけがなされていれば、それらの活動は「キャリア教育」としても重要な機会となります。
- ※ 応募対象となるか判断が困難な場合は、事務局にお問い合わせください。

(3) 応募資格

- 応募者は、取組を行っている主たる事業者であること。
- 2015年4月1日以降にキャリア教育を実施した企業・団体であること。なお、2015年3月31日以前から継続して活動している場合も応募可能です。審査の対象は原則として2015年4月1日以降の活動となりますが、2015年度の取組が実施中で、前年度と同様に実施する予定である場合には、2014年度の取組内容を審査対象とします。
- 活動内容の公表が可能な企業・団体であること。
- 学校教育におけるキャリア教育の取組を支援している事例の場合には、当該学校から応募に係る一切の事項について了承を得ていること。
- 応募企業・団体が表彰を受ける場合、その代表者又は代表者に準ずる者が2015年12月17日（木）に開催する表彰式（東京）に参加することが可能な企業・団体であること。
- 前年度までに、応募・受賞の実績があっても構いません（ただし最優秀賞受賞者は除く）。

(4) 賞の構成

各企業・団体の取組の主体により 3 部（大企業の部・中小企業の部）・コーディネーターの部）より構成することとし、審査委員会による審査により、大賞、最優秀賞、優秀賞、奨励賞を決定します。

【審査部門】

① 大企業の部

キャリア教育に取り組む大企業・団体（従業員数が 300 人超）

② 中小企業の部

キャリア教育に取り組む中小企業・団体（従業員数 300 人以下）

※大企業のグループ企業については、単独企業としての取組については企業規模に応じて審査部門を判断するが、他グループ企業の体制・施設等を活用してグループとして取り組んでいる場合については、①大企業の部に応募する。

③ コーディネーターの部

複数の企業や学校が行うキャリア教育を、専門的知識・経験に基づいたキャリア教育プログラムやマッチングサービス等を提供することで支援するコーディネート機関

※商工会議所・商工会・中小企業団体・商店街・協議会等が会員企業を取りまとめてキャリア教育支援活動を実施している場合は、②中小企業の部に応募する。

【賞の構成】

大賞	最優秀賞のうち、総合的に最も優秀と認められる取組
最優秀賞 (経済産業大臣賞)	各部（大企業の部・中小企業の部・コーディネーターの部）において最も優秀と認められる取組
優秀賞	各部（大企業の部・中小企業の部・コーディネーターの部）において優秀と認められる取組
奨励賞	企画性や教育効果に卓越した点があり、今後の継続的な取組により、一層の発展が期待される取組

(5) 審査基準

企業等による継続的・効果的なキャリア教育支援の取組を評価する観点から、応募された取組について以下の項目により評価を行います。

● 大企業の部・中小企業の部

審査基準	審査項目
・継続性 長期にわたり運営していくため、継続的に改善するサイクルが実行されているか	授業実施前に計画（実施体制、スケジュール等）は練られているか
	学習者・学校に対する感想文・アンケート調査等を通じた評価・分析を踏まえ改善を行っているか
	事業の継続に必要な実施体制が整えられているか
	プログラムの改善や支援者である社員や関係者の意欲向上に役立てるために、取組に参加した社員や関係者等の意見・感想を把握し改善につなげているか
・普及性 企業・団体の活動規模に応じた展開をしているか	企業・団体の活動規模に応じ、より多くの学校（または地域）で実施しているか
・汎用性 教育ニーズに対応できる取組となっているか	実施時間数に可変性・柔軟性はあるか
	【学校教育内での活動】 学校側と学習目標・内容のすりあわせを行っているか 【学校教育外での活動】 地域の課題や学習者の学習課題を踏まえた内容となっているか
・企画性 プログラムの内容に工夫があるか（目標設定、授業の進め方等）	プログラムによって育成したい能力など目的・目標が定まっているか
	目的・目標に対して、プログラム内容・手法は適切か（成長段階に応じた内容・手法になっているか、学習者の集中力を引きつける内容となっているか等も勘案）
	核となるプログラム(体験学習等)の効果を高めるための事前・事後学習を行っているか（学校と協議の上、学校側にて行っている場合も含む）
	チームや多様な立場の人々と協力・コミュニケーションする内容が盛り込まれているか
	学んだ内容をワークシートやレポート・プレゼンテーションにより発表する工夫がされているか
・キャリア教育としての教育効果 授業内容が、社会的・職業的自立に向けた力の育成支援となっているか	自己の可能性・適性への気づき、「将来の生き方」への興味関心・意欲を喚起する内容となっているか
	社会の実情を知り、学びの必要性を感じる内容となっているか
	社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）等、多様な人々と協働して仕事を行っているために必要な能力の育成に資する内容となっているか

● コーディネーターの部

審査基準	審査項目
・有効性 職業的自立に向けた教育効果の向上に貢献する支援サービスを提供しているか	学校および企業、地域社会のニーズや、活用できる地域資源を踏まえたプログラムを開発できているか
	一人一人の社会的・職業的自立に向けて、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）等、多様な人々と協働して仕事を行っていくために必要な能力や態度を育てる教育を、教育対象となる各段階の学生・生徒・児童に対して適切に実行できているか
	事前・事後学習、フィードバックを行うなど、体験で得た知識や経験を深めるためのプログラム上の工夫がなされているか。
	プログラムを実施した際の児童・生徒等、教員、協力者の意見を参考にしながら実体に即したプログラム案へと改良する等、継続的に改善するサイクルを実行して取組みの向上をしているか
・支援実績 数多くの企業・学校・若者に支援サービスを適用しているか	より多くの企業・学校・若者に支援サービスを適用しているか
・産学関係構築への貢献 産学関係者が相互理解を深め、協働するための関係構築に貢献しているか	プログラムの計画に沿って、支援する人材・企業と、時間や場所、必要物品、事前学習等の実施に関する連絡調整を適切に行っているか
	産学教育関係者の相互理解を深め、効果的な教育づくりを持続的に推進するための議論の場や、勉強会等を設けているか
	産学協働の持続的な関係作りや、その拡大に向けて効果的な普及・啓発活動を推進しているか

（６）審査方法

提出いただいた応募書類への記載内容を対象として、学識経験者、経済団体関係者、教育関係者等有識者から構成される審査委員会において審査します。必要に応じ、事務局によるヒアリングにご協力いただく場合があります。

（７）スケジュール

応募受付期間 ２０１５年 ７月１日（水） ～ ９月３０日（水）必着
審査結果通知 ２０１５年 １１月上旬
表彰式 ２０１５年 １２月１７日（木）

※「文部科学大臣表彰（キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰）」「キャリア教育推進連携表彰」と併せて表彰式を行います。

（８）問い合わせ先

キャリア教育アワード２０１５事務局

（キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会）

担当：小寺・松倉

〒167-0051 東京都杉並区荻窪 5-28-16 西武コミュニティオフィス 302

TEL 03-3392-1988 FAX 03-5335-7366

E-mail award@human-edu.jp

3. 応募方法

(1) 応募書類

応募書類は、個人情報を除いた上で、活動内容と写真を事例集に掲載し、Webや表彰式などで配布する事例集などで公表いたします。このため、写真については、撮影者、被写体の許可が得られているものをご提出ください。環境上、電子媒体の準備が難しい場合は、事務局までお問い合わせください。

● エントリーシート（必須）

下記 URL よりエントリーシートをダウンロードし、必要事項を御記入の上、コピー 2 部及びデータ保存された電子媒体 1 部をご提出ください。

URL: <http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/award.html>

● 活動資料

① 活動状況が分かる写真

写真は 2 種類をエントリーシートへ貼付け、またその写真データを jpg 形式にて電子媒体に入れてご提出ください。

ファイル名は企業・団体名とし、複数写真がある場合は「-数字」をつけてください。

② その他活動内容や成果等が分かる参考資料

参考資料は 3 ～ 5 枚程度として下さい。（形式は問いません）

(2) 応募方法

- 3. (1) で示した必要書類を、キャリア教育アワード事務局まで郵送してください。FAX や、E-mail 等による提出は原則として受け付けられません。

- 応募締切 2015 年 9 月 30 日（水） 必着

- 応募書類送付先

〒167-0051

東京都杉並区荻窪 5-28-16 西武コミュニティオフィス 302

キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会

キャリア教育アワード 2015 事務局 宛

(3) 注意事項

- 提出いただいた資料類、写真類は返却いたしませんので、あらかじめ御了承ください。
- 審査に関する問い合わせには応じられません。
- 応募いただいた団体名や活動内容を、新聞、雑誌、インターネット等で公表することがあります。また報道関係者等からの取材にご協力をお願いすることがあります。

(4) 個人情報の取り扱いについて

- 応募者の個人情報は、審査及び運営に必要な範囲内で利用し、第三者へ提供することは一切ありません。応募者の同意なく、利用目的を越えて利用することはありません。

■ これまでの「キャリア教育アワード」受賞企業・団体一覧

年度	賞の種類		団体名
平成22年度	第1回	最優秀賞	・パナソニック株式会社
		小宮山審査委員長賞	・横須賀商工会議所
		優秀賞	・会津若松商工会議所青年部 ・株式会社シマノ ・新生フィナンシャル株式会社 ・日本アイ・ビー・エム株式会社
		審査委員特別賞	・テックエンジニアリング株式会社
平成23年度	第2回	大賞・最優秀賞	地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・福井商工会議所青年部
		最優秀賞 (経済産業大臣賞)	普及型キャリア教育部門 ・シャープ株式会社、NPO法人気象キャスターネットワーク 地域密着型キャリア教育部門 ・株式会社西島製作所
		優秀賞	普及型キャリア教育部門 ・株式会社ウィザス 清川メッキ工業株式会社
			地域密着型キャリア教育部門 ・株式会社熊谷組
			地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・株式会社教育と探求社
		審査委員特別賞	・千葉市・千葉大学教育学部 ・西尾信用金庫
平成24年度	第3回	大賞・最優秀賞	地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・練馬区・練馬アニメーション協議会
		最優秀賞 (経済産業大臣賞)	普及型キャリア教育部門 ・シャープ株式会社 地域密着型キャリア教育部門 ・株式会社ケミカル山本
		優秀賞	普及型キャリア教育部門 ・花王株式会社 ・ソニー生命保険株式会社
			地域密着型キャリア教育部門 ・愛媛県中小企業家同友会
			地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・公益社団法人太田青年会議所 ・東京商工会議所
		奨励賞	普及型キャリア教育部門 ・一般社団法人日本チャレンジ教育協会 ・株式会社読売新聞東京本社
			地域密着型キャリア教育部門 ・有限責任あすさ監査法人 ・SBエナジー株式会社 ・積水化学工業株式会社
平成25年度	第4回	大賞・最優秀賞	中小企業の部 ・岩村田本町商店街振興組合
		最優秀賞 (経済産業大臣賞)	大企業の部 ・ソニー生命保険株式会社 地域企業協働の部 ・アイシン精機株式会社・アイシングループ
		優秀賞	大企業の部 ・アクセンチュア株式会社コーポレート・シチズンシップ 「若者の就業力・起業力強化」チーム ・株式会社ダスキン
			中小企業の部 ・特定非営利活動法人G-net（ジーネット） ・橋本産業株式会社
			地域企業協働の部 ・株式会社 Campanula（カンパニウラ） ・特定非営利活動法人鳳雛塾
		奨励賞	大企業の部 ・積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー 化学教室プロジェクト ・一般社団法人ディレクトフォース ・株式会社野村総合研究所
			中小企業の部 ・特定非営利活動法人国際社会貢献センター
			地域企業協働の部 ・ジョブスタディ（運営事務局：コクヨ株式会社） ・中高生夢チャレンジ大学実行委員会
平成26年度	第5回	大賞・最優秀賞	中小企業第2部（協働の部） ・かわさきマイスター友の会
		最優秀賞 (経済産業大臣賞)	大企業の部 ・MSD 株式会社 中小企業第1部（単独の部） ・特定非営利活動法人地域活動支援センターぶろぼの ぶろぼのスコラ事業部 コーディネーターの部 ・特定非営利活動法人アスクネット
			大企業の部 ・ダイキン工業株式会社 ・株式会社日立製作所 ユニバーサルデザイン出前授業プロジェクトチーム
			中小企業第1部（単独の部） ・スリール株式会社
		優秀賞	中小企業第2部（協働の部） ・瀬戸キャリア教育推進協議会 コーディネーターの部 ・特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアム
			大企業の部 ・SCSK株式会社 ・日本ヒューレット・パカード株式会社 ・株式会社フジテレビジョン
			中小企業第1部（単独の部） ・折り紙ヒコーキ協会（事務局：株式会社キャステム） ・一般社団法人 Summer in JAPAN ・株式会社トモノカイ
		奨励賞	中小企業第2部（協働の部） ・リエゾン・デートル コーディネーターの部 ・特定非営利活動法人企業教育研究会 ・株式会社キャリアリンク ・株式会社ソシオエンジン・アソシエイツ

※平成23年度より、最優秀賞（経済産業大臣賞）受賞者のうち、総合的に最も優秀と認められる企業・団体等に「大賞」を授与している。